

阪大 —地域に生き世界に伸びる—

# NOW

80<sup>th</sup> 原点へ  
ANNIVERSARY  
未来へ  
2011  
OSAKA UNIVERSITY



2

OSAKA UNIVERSITY 2010/No.116



## トピックス

第2回大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウム  
“大阪弁”で語り合う“かんきょう”!?

クローズアップ

TeachingからLearningへ  
スチューデント・コモンズ

# 2010 2月号

## No. 116

## 目次

|            |    |
|------------|----|
| トピックス      | 2  |
| クローズアップ    | 4  |
| 役員室だより     | 8  |
| 創立80周年記念事業 | 28 |
| ナウススペシャル   | 32 |
| キャンパスニュース  | 34 |
| 表彰等        | 56 |
| 人事         | 59 |
| 討報         | 60 |
| インフォメーション  | 62 |
| 海外拠点だより    | 64 |
| 交流協定大学     | 66 |
| クラブ&サークル   | 67 |
| トピックス      | 68 |



表紙写真：『日本図』[パリ 1804]  
(24.2×33.2cm) 銅板筆彩

総合図書館所蔵コレクション「西洋古版アジア地図」の貴重な1枚で、作者不詳のフランス語版日本地図です。内容はフランスの著名な地理学者ダンヴィル(D'Anville, 1697-1782)作成の図をほぼ全面的に踏襲したものとなっています。

また、図書館に設けられたラーニングcommonsでは、活発にディスカッションも行われており、交流し、相互に刺激しあう場になっています。

表紙デザイン：株式会社ココティエ

### 第2回大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウムを開催

## “大阪弁”で語り合う“かん

地域と大学が一緒になって考える“まち育て” PartII



昨年度11月に引き続き、平成22年1月24日（日）、第2回目の大阪大学21世紀懐徳堂シンポジウム「地域と大学が一緒に考える“まち育て” part II」が大阪大学中之島センターで開かれました。今年度のテーマは「“大阪弁”で語り合う“かんきょう”!？」です。十分な理解がむずかしく、なかなか一筋縄では解決できない環境問題を、“大阪弁”すなわち生活者のことばでじっくり語り合おう、というのが趣旨です。

総合司会は、本学同窓生である毎日放送アナウンサーの西靖さん（平成6年法学部卒業）が担当しました。高杉英一理事・副学長、鷲田清一総長によるご挨拶のあと、第1部としてプレゼンテーション3題、第2部として落語、およびタウンホールミーティングが行われました。

1つめのプレゼンテーションは、工学研究科の下田吉之教授による「持続可能性とは？」で、サステナビリティ・サイエンス研究機構での研究を踏まえ、地球温暖化と温室効果ガスの関係についての説明があり、また持続可能な都市生活についての具体的な提案がなされました。

2つめのプレゼンテーションは、コミュニケーションデザイン・センターの八木絵香特任講師による「World Wide Views in Japanという冒険—地球温暖化問題について38カ国4000人が討議する—」でした。平成21年9月にコミュニケーションデザイン・センターが中心となって京都で実施されたWorld Wide Views in Japanについて説明があり、その成果と反省点等について話されました。

3つめのプレゼンテーションは、コミュニケーションデザイン・センター長の金水敏教授による「“大阪弁”と“かんきょう”—たいそうなことをやわらかく話そう—」で、言語と環境の興味深い関係、大阪弁が生まれた江戸時代の生活と環境、リサイクル観念の発達した大阪人の気質等について話されました。

きょう”!?



第2部は、ゲストの桂吉弥さんによる落語で幕を開けました。昔の大阪の寒い冬を舞台にした「親子酒」で、平成18年「さくやこの花賞」、平成20年「芸術祭賞」大衆芸能部門新人賞受賞の巧みな話芸を会場一同で堪能しました。つづいてのタウンホールミーティング「本音で話そう 市民生活と環境のこと」では、西靖さんがファシリテーターをつとめ、またコメンテーターとして、高杉理事、鷺田総長、第1部登壇者に加えて高島幸次CSCD招へい教授、橋爪節也総合学術博物館教授、小浦久子工学研究科准教授、福田知弘工学研究科准教授、松井孝典工学研究科助教が加わりました。

まず第1部終了後に会場の皆さんに書いていただいたご意見、ご質問等をスクリーンに映し出して確認し、その後、さまざまな観点から、コメンテーターを中心に環境問題と市民生活との関わりについて、丁々発止の議論が交わされました。単純な視点では解けない環境問題の難しさが改めて明らかになったとともに、正しい情報、多層的な視点を提供していく大学の役割の重要性も示されたようでした。

お集まりいただいた多くの聴衆のみなさま、司会者の西さん、ゲストの桂吉弥さんらのご協力を得て、今年度も有意義なシンポジウムとなりました。改めてお礼を申し上げます。



21世紀懷徳堂企画会議議長

コミュニケーションデザイン・センター長

金水 敏



## TeachingからLearningへ

### 「語り合う場・学び合う場・磨き合う場」 を創造するステューデント・コモンズ

#### 「語り合う場」「学び合う場」「磨き合う場」



**S**TUDENT **C**OMMONS

ステューデント・コモンズ

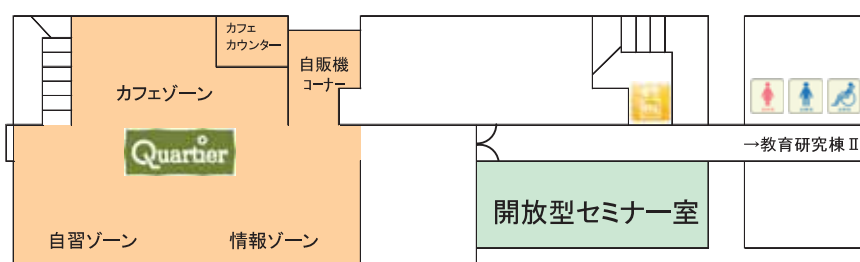
大学教育実践センター教育研究棟1,2階に新設されたステューデント・コモンズは、学生同士あるいは学生・教職員の自由な対話を活性化するための開放的なスペースです。

双方向型授業、学習成果発表、課外活動、留学生との交流、学生同士の談話、学生・教職員企画のさまざまなイベント、FD活動など、多様な知的交流が実現できる環境が整っています。

昨年11月9日～13日のオープニングウィークでは、学生による企画イベントも多く開催され、大変盛況でした。今後ますます、「語りあい」「学びあい」「磨きあう」知的にぎわいのあるスペースとして活性化することが期待されています。

#### 1 階部分は自由な対話の場

阪大カフェ「カルチエ」と「開放型セミナー室」があり、どちらも室内部分とテラス部分とを一体化して利用することができる開放的な雰囲気を持つスペースです。



ステューデント・コモンズ1階部分

# Quartier

カルチエ



カフェゾーンでの軽食・喫茶のサービス



情報ゾーンでディスカッションする学生



自習ゾーンでの学生のディスカッション

## カルチエ（224m<sup>2</sup>）

朝8時から夜8時まで、いつでも自由に、コーヒーブレイクをしながら雑談を楽しむことができる「カルチエ」は、鷺田総長が命名し、パリの学生街カルチエ・ラタン（「ラテン語を話す（＝教養のある）学生が集まる地区」）にちなんだものです。

「カフェゾーン」「情報ゾーン」「自習ゾーン」から構成され、いずれのゾーンも組み合わせが自由なテーブルと椅子を設置していますので、一人でもグループでも利用することができます。「カフェゾーン」は、軽食・喫茶の販売サービスを行い、ゆったりとしたディスカッションのできるスペースとなっています。「情報ゾーン」では、学内のさまざまな情報がキャッチできるように、大型ディスプレイ O + PUS（Osaka university + Panasonic Universal Sight）を設置するとともに、教職員提供による書籍（カルチエ文庫）や広報誌等を置いています。移動式ホワイトボードを設置している「自習ゾーン」では、一人から多人数まで状況に応じて自主的な学習活動が可能です。

## 開放型セミナー室（76m<sup>2</sup>）

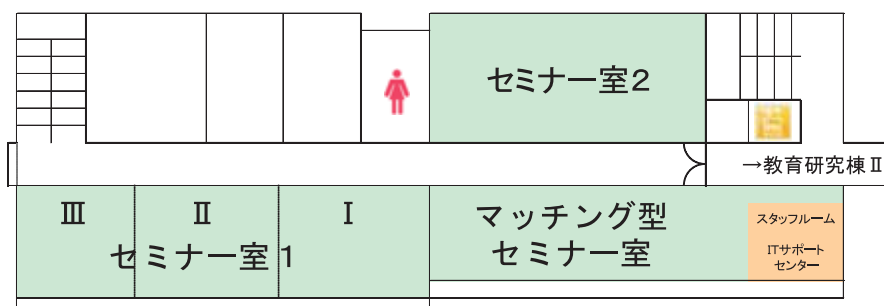
全面ガラスの折り戸を開けたオープンスタイルの授業が可能なスペースです。100 インチスクリーンが設置されており、映像による教育活動を展開するためのシアター上映も可能です。学生の学習成果発表や課外活動、さまざまなイベントも展開することができます。



開放型セミナー室でのイベント

## 2 階部分は新しい対話型教育の場

「スタッフルーム」と「マッチング型セミナー室」など3つのセミナー室があり、学習支援や自由な発想の多様な教育活動を行うスペースです。



スチューデント・commons 2 階部分

### セミナー室1 (156m<sup>2</sup>)・2 (79m<sup>2</sup>)

セミナー室1は最大108の席数を持ち、3つのスペースに分割して活用することも可能になっています。セミナー室2は



セミナー室1

36の席数を持ち、テーブル、椅子の移動・組み合わせが自由となるよう配慮されています。セミナー室1、2ともにプロジェクターが設置されています。



セミナー室2

### マッチング型セミナー室 (157m<sup>2</sup>)

学生が自発的にテーマを見つけ、自主的に学習をすすめてゆく、新しいタイプの授業である Discovery Seminar 等に利用されています。自由な形態での学習、討論、発表を可能とするため、テーブル、椅子は、移動・組み合わせ可能とし、パソコン、ホワイトボード、プロジェクターを設置しています。



Discovery Seminar の授業風景

## 5つのセンターによる全学的教育の展開



教育研究棟 案内板

スチューデント・コモンズのある教育研究棟。(旧自然科学棟)と隣接の棟には、大学教育実践センター、コミュニケーションデザイン・センター(CSCD)、グローバルコラボレーションセンター(GLOCOL)、学際融合教育研究センター、留学生センターが集結しており、連携して、大阪大学の3つの教育目標「教養」「デザイン力」「国際性」を追求していく体制を築いています。

## ●スタッフルーム

マッチング型セミナー室内のスタッフルームでは、教職員や学生サポーター( Teaching Assistant: ティーチング・アシスタント)が必要に応じて、ノートパソコン、デジタルムービーカメラ、プロジェクター、ハイブリッドスクリーン、ワイヤレスマイク、ホワイトボードなどの備品の貸し出しを行っています。また、ITサポートセンターも兼ね、学生の相談に応じています。

スチューデント・コモンズのセミナー室は、全学的な利用が可能ですので、利用したい場合はスタッフルームにご連絡ください。利用方法については、電話(内線6148番)または大学教育実践センターのホームページをご覧ください( <http://www.cep.osaka-u.ac.jp> )。

## 知っていますか?こんな時には。。。



スチューデント・コモンズ1階「カルチエ」は知的交流のスペース。コーヒーを飲むだけでなくこんな目的にも利用できます!

- ・クラブ・サークルの打ち合せ、集会に。  
※他の利用者に迷惑のかからない範囲で!!
- ・学生発企画のイベント開催に。
- ・無線LANが使える環境で作業がしたい。
- ・仲間同士の交流に。
- ・自習スペースとして。



スチューデント・コモンズは大学教育実践センター内にあります!

実践センターmap



\* 棟内でのノートパソコン、マイク、プロジェクター等の貸出しにも応じます。詳しくはスタッフルーム [sc-office@cep.osaka-u.ac.jp](mailto:sc-office@cep.osaka-u.ac.jp) まで!

# 役員室だより

2010.2 Vol.34

## 大学の動き

### 平成 22 年度概算要求に係る予算案の伝達

平成 22 年度概算要求事項については、昨年の 6 月 30 日に文部科学省に提出、8 月末に文部科学省から財務省への概算要求の結果、1 月初旬に予算案の伝達がありました。また、平成 21 年度第 2 次補正予算において、2 件の事項が盛り込まれております。

#### 平成 22 年度 概算要求事項予算案伝達内訳

| 部 局 名                                   | 事 項 名                                                                        |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 【学部・大学院組織等整備分】                          |                                                                              |
| 医 学 部                                   | 入学定員の増(5名増)〔教員2名増〕                                                           |
| 医 学 部                                   | 収容定員の増(3年次編入→2年次編入(9月))〔10名増〕                                                |
| 高 等 司 法 研 究 科                           | 修士入学定員の減(20名減)                                                               |
| 薬 学 研 究 科                               | 修士入学定員の減(10名減)                                                               |
| 工 学 研 究 科                               | 修士入学定員の増(248名増)                                                              |
| 基 礎 工 学 研 究 科                           | 修士入学定員の増(62名増)                                                               |
| 【特別経費】                                  |                                                                              |
| 【プロジェクト分】 (プロジェクト分の事項名称における太斜字は継続分を示す。) |                                                                              |
| 国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実                     |                                                                              |
| 理 学 研 究 科                               | 超分子におけるストレスと共生(5-5)                                                          |
| グローバルコラボレーションセンター                       | 国際協力・共生社会のための実践的教育改革事業・グローバルコラボレーションセンター-(9-4)<増額要求>                         |
| サイバーメディアセンター                            | 大学教育のグローバル化に対応したFD支援事業(4-2)                                                  |
| 基 礎 工 学 研 究 科                           | 量子機能融合による未来型材料創出事業・スピントロニクス、オプトロニクス、モレクトロニクス、クオントロニクスの融合による未来型機能材料創出事業-(5-2) |
| 高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実                   |                                                                              |
| 薬 学 研 究 科                               | 高度専門薬学教育システムの確立(5-5)                                                         |
| 臨床医工学融合研究教育センター                         | 臨床医工学・情報科学融合領域の人材育成教育プログラムの開発(5-5)                                           |
| 医 学 系 研 究 科                             | 「子どものこころの発達研究センター」による教育研究事業(6-5)                                             |
| コミュニケーションデザイン・センター                      | コミュニケーションデザイン教育事業の推進・コミュニケーションデザイン・センター-(11-6)                               |
| 21世紀模範堂・コミュニケーションデザイン・センター              | 社会連携活動を通じたインターンシップの推進(2-2)                                                   |
| 世 界 言 語 研 究 セ ン ター                      | 社会人を対象とした学士レベルの外国語教育プログラムの提供(3-2)                                            |
| ナノサイエンスデザイン教育研究センター                     | ナノサイエンス総合デザイン力育成事業の推進・多重ネットワーク型産学・国際連携人材育成-(4-2)                             |
| 学際融合教育研究センター                            | 学際融合教育事業の推進・学際融合教育研究センターの構築-(5-2)                                            |
| 医 学 部 附 属 病 院                           | 医療安全能力向上のための効果的教育・トレーニングプログラムの開発・医療安全学の構築と人材育成-(5-2)                         |
| 法 学 研 究 科                               | 総合的知的財産教育事業の推進・知財センター(IPRism)の設置-(6-1)                                       |
| 薬 学 研 究 科                               | 先導的薬剤師養成に向けた実践的アド/インスト教育プログラムの共同開発(6-1)                                      |
| 幅広い職業人の養成や教養教育機能の充実                     |                                                                              |
| サイバーメディアセンター                            | 高度外国語教育全国配信システムの構築(5-4)                                                      |
| 大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実                  |                                                                              |
| 世 界 言 語 研 究 セ ン ター                      | 民族紛争の背景に関する地政学的研究・中央アジア、アフリカ、パレスチナ、旧ユーゴの言語・文化の研究(5-4)                        |
| 科学教育機器リノベーションセンター                       | 革新的研究教育基盤機器開発整備事業(5-3)                                                       |
| 産 業 科 学 研 究 所                           | 附置研究所間アライアンスによるナノとマクロをつなぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト(6-1)                         |
| 超 高 圧 電 子 顕 微 鏡 セ ン ター                  | 超高圧電子顕微鏡連携ステーション(第 期)(6-1)                                                   |
| 接 合 科 学 研 究 所                           | 特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト(6-1)                                            |
| 蛋 白 質 研 究 所                             | 生命分子素子から生命システムの全体像を解き明かす多次元国際研究(6-1)                                         |
| 核 物 理 研 究 セ ン ター                        | サブアトム科学研究推進事業(4-1)                                                           |
| レーザーエネルギー学研究センター                        | レーザー相対論核科学の開拓(6-1)                                                           |
| 産学連携機能の充実                               |                                                                              |
| 金 融 ・ 保 険 教 育 研 究 セ ン ター                | 新領域分野「金融・保険科学」に関する文理融合型教育プログラムの開発・金融・保険教育研究センター教育事業-(5-5)                    |

| 部 局 名                 | 事 項 名                                |
|-----------------------|--------------------------------------|
| <b>【全国共同利用・共同実施分】</b> |                                      |
| 産 業 科 学 研 究 所         | 物質・デバイス領域共同研究拠点によるネットワーク型共同研究事業(6-1) |
| 社 会 経 済 研 究 所         | 行動経済学公募共同研究プロジェクト(6-1)               |
| 微 生 物 病 研 究 所         | 微生物病共同研究拠点事業(6-1)                    |
| 接 合 科 学 研 究 所         | 接合科学共同利用・共同研究拠点事業(6-1)               |
| 蛋 白 質 研 究 所           | 蛋白質研究共同利用・共同研究拠点事業(6-1)              |
| 核 物 理 研 究 セ ン タ ー     | サブアトム科学研究拠点事業(6-1)                   |
| レーザーエネルギー学研究センター      | 超高強度レーザーが拓く高エネルギー密度科学の戦略的研究拠点事業(6-1) |
| <b>【大学改革共通課題分】</b>    |                                      |
|                       | 留学生受入促進等経費                           |
|                       | 障害学生学習支援等経費                          |
|                       | 社会人教育支援経費(21年度は教育改革経費)               |
|                       | 厚生補導特別経費                             |
|                       | 地域医療拠点体制等充実支援経費                      |

|                              |            |
|------------------------------|------------|
| <b>【病院特別医療機械設備(長期借入金対象)】</b> |            |
| 医 学 部 附 属 病 院                | 集中治療支援システム |
| 医 学 部 附 属 病 院                | 眼科手術支援システム |

|                                    |                   |
|------------------------------------|-------------------|
| <b>【国立大学法人施設整備費補助金(大型特別機械整備費)】</b> |                   |
| 核 物 理 研 究 セ ン タ ー                  | LEPS2ビームライン及び測定装置 |

(21年度第2次補正)

|                         |                              |
|-------------------------|------------------------------|
| <b>【国立大学法人設備整備費補助金】</b> |                              |
| 医 学 部 附 属 病 院           | 電動リモートコントロールベット(医療用器械設備)     |
| 医学部・大学教育実践センター          | 医師不足解消に向けた医学部定員増に伴う学生教育用設備整備 |

## 平成22年度予算案における国立大学法人等整備の実施予定事業

### ■継続事業(3件)

- 22年度:(豊中)学生交流棟施設整備事業(PFI事業13-6)
- 22年度:(吹田)研究棟(工学部)施設整備等事業(PFI事業13-5)
- 22年度:(吹田)本館改修(微研)【後年度】

### ■新規事業(3件)

- 22年度:(吹田)総合研究棟改修(工学系)
- 22年度:(豊中)総合研究棟改修(共通教育等)
- 22年度:(医病)基幹・環境整備(防災設備等改修)

## 大阪大学活動方針2010

一昨年12月に、大阪大学の中長期のビジョンを示した「大阪大学グラウンドプラン」と、その具体的な取り組み課題をまとめた「大阪大学活動方針2008」を策定しました。今年1月には、この1年間の活動状況や成果を踏まえ、新たに「大阪大学活動方針2010」を取りまとめました。2010年以降に大阪大学が積極的に取り組んでいく主要事項及び2011年に迎える創立80周年記念事業を、「原点へ・未来へ」という項目で追加しました。教職員全員に行き渡るよう冊子を配布していますので、構成員のみなさんには是非読んでいただいて、大阪大学のめざす方向へ一丸となって進んでいきたいと思っています。



## 各室の検討状況

### 総合計画室

#### 第2期中期目標・中期計画

第2期中期目標・中期計画については、次期中期目標・中期計画検討ワーキングで昨年12月までに大阪大学の原案をとりまとめ、1月20日に文部科学省へ提出しました。今後はこの原案を文部科学省と財務省が協議し、国立大学法人評価委員会の意見を聴いた上で、3月末頃までには最終決定される見通しとなっています。

#### 平成22年度計画

平成22年度計画については、昨年12月に年度計画作成ワーキングでまとめた第1次案に対し各部局・各室からの意見を求め、現在この意見を踏まえた修正をワーキングで行ったところです。3月末には文部科学省へ提出する予定です。

#### 平成22年度大学留保ポストの配分

平成22年度大学留保ポストについて、総長・理事によるヒアリング（1月25日～28日）と、総合計画室によるヒアリング（2月3日）をそれぞれ実施し、2月の役員会で次のとおり配分することを決定しました。

平成22年度大学留保ポストの配分

| 留保ポスト配置部局等          | 配分ポストの職、数及び配分期間             | 備 考    |
|---------------------|-----------------------------|--------|
| 総合学術博物館 資料部         | 助教1 22.4.1～25.3.31（3年）      | （学芸員）  |
| 先端科学イノベーションセンター     | 教授1 22.4.1～                 |        |
| ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー部門 | 助教1 22.4.1～25.3.31（3年）      |        |
| 保健センター              | 准教授1、助教2 22.4.1～25.3.31（3年） | （内科医）  |
|                     | 准教授1 22.9.1～27.8.31（5年）     | （精神科医） |
|                     | 助教1 22.4.1～25.3.31（3年）      |        |
| 文書館設置準備室            | 准教授1 22.4.1～27.3.31（5年）     |        |
| キャンパスデザイン室          | 准教授1 22.4.1～27.3.31（5年）     |        |
| 産学連携推進本部 総合企画部      | 教授1 22.4.1～25.3.31（3年）      |        |
| 留学生センター 留学生交流指導部門   | 教授1 22.4.1～27.3.31（5年）      |        |
| 国際企画推進本部            | 准教授1 22.4.1～27.3.31（5年）     |        |
| 安全衛生管理部             | 講師1 22.4.1～27.3.31（5年）      |        |
| ハラスメント相談室           | 教授1 22.4.1～27.3.31（5年）      |        |

#### 学内措置による教育研究組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による教育研究組織の整備として、2月の役員会で次の事項が承認されました。

- ・歯学部附属病院近未来歯科医療センターの設置（平成22年4月1日）

#### 施設整備等に係る各部局キャラバンの実施

平成19年度からスタートした施設部長を隊長とする各部局へのキャラバンが、今年度も昨年9月11日から12月24日までの約3月半をかけて実施されました。

各部局から、老朽対策・安全対策・防水補修・バリアフリー対策や省エネ対策について様々な要望や意見が出されました。キャラバン隊は、各部局との意見交換だけでなく直接現地や現場に足を運び、要望内容の状況を逐一確認しました。これらの要望は、全学的な検討課題として緊急性、重要性を整理し、今後検討を進めていくこととしています。

- <検討課題> ・施設の維持管理費（教育等施設基盤経費）の配分の在り方
- ・建物主要設備機器の老朽化による更新の在り方
  - ・教職員宿舎の在り方、等

来年度以降もキャラバンによる施設設備の点検を継続して実施する予定ですので、各部局も引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

## 教育・情報室

### 室員の追加とグローバル30の推進

2010年1月1日より、情報科学研究科の菊野亨教授（留学生センター長）が新室員として教育・情報室に加わりました。菊野教授は国際交流室との兼務となります。教育・情報室は新体制のもとで国際交

流室と連携し、大阪大学のグローバル30（国際化拠点整備事業）を教育面で支え、本学の教育理念である「国際性」の実現に努めることになります。

### 平成22年度政府予算案の決定と大学教育改革の支援

平成21年末に、平成22年度政府予算案が閣議決定されました。大学教育改革支援の充実に関連する予算は、全体で以下のとおりです。予算の見直しの

結果、GPなどで新規公募が行われるプログラムは減少しています。

#### 主なプログラム

- ・大学教育・学生支援推進事業（学士課程教育等の質保証、就職支援等）（92億円）【新規公募を実施（テーマA）】
- ・大学生の就業力育成支援事業（30億円）【新規公募を実施】
- ・大学院教育改革推進事業（グローバルCOEプログラム、組織的な大学院教育改革推進プログラム）（287億円）
- ・大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム（48億円）
- ・国際化拠点整備事業（33億円）
- ・日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業（5億円）【新規公募を実施】
- ・がんプロフェッショナル養成プラン（20億円）
- ・周産期対策のための医療環境の整備（1億円）【新規公募を実施】
- ・大学病院における医師等の勤務環境改善のための人員の雇用（22億円）【新規公募を実施】
- ・医師不足解消のための大学病院を活用した専門医療人材養成（26億円）【新規公募を実施】
- ・先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム（3億円）
- ・産学連携による実践型人材育成事業（2億円）
- ・社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム（4億円）

### 教育関係の概算要求

平成22年度の特別経費として新規に認められた本学の教育関係の概算要求は、「総合的知的財産教育事業の推進 - 知財センター（IPrism）の設置 -」（法学研究科）と、「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」（薬学研究科）です。継続要求の「国際協力・共生社会のための実践的教育改革事業 - グローバルコラボレーションセンター -」（GLOCOL）も増額を認められました。

教育関係の継続要求分としては、上記 GLOCOL

のほか、サイバーメディアセンター（2件）、コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）、医学系研究科、臨床医工学融合研究教育センター、薬学研究科、世界言語研究センター、21世紀懐徳堂・CSCD、学際融合教育研究センター、ナノサイエンスデザイン教育研究センター、医学部附属病院、金融・保険教育研究センターについて認められています。今後も個性ある優れた教育が実現されるようご尽力をお願いします。

## 平成22年度「大学院高度副プログラム」と、平成23年度開始の「副専攻プログラム」

「大学院高度副プログラム」は、本学の大学院学生が幅広い領域の素養を身に付けるとともに、新しい分野について高度な専門性を獲得するための学際融合的な大学院教育プログラムとして、全国に先駆けて実施しています。平成21年度設置の学際融合教育研究センターが、文部科学省の特別経費を受けてこの教育制度の支援を行っています。本年度は博士前期課程初年次生の20%以上がいずれかの大学院高度副プログラムを履修しています。

平成22年度提供の「大学院高度副プログラム」、および社会人向けの「科目等履修生高度プログラム」が下表のとおり決まりました。前年度に比べ、前者

が7件、後者が3件増加し、順調に拡大しています。今後も全学から多くの先進的プログラムが提案されることを期待します。

なお、主専攻の修了要件30単位に加えて8単位以上の修得を条件とする「高度副プログラム」に対し、14単位以上を条件とする「副専攻プログラム」に関する申合せがこのたび承認されました。副専攻プログラムは平成23年度開始予定で、「主専攻に準ずる専門的素養又は幅広い分野の素養」を培うための、「主専攻に準ずる一定のまとまりを有する科目」により構成されます。修了者には、プログラムの幹事部局の長と総長との連名による修了認定証が発行されます。

平成22年度 大学院高度副プログラム提案書一覧

| 整理番号 | 新規・継続 | プログラム名称                                        | 提案部局                | 連携部局                                | 修了単位数                      | 履修対象者             | 備考        |
|------|-------|------------------------------------------------|---------------------|-------------------------------------|----------------------------|-------------------|-----------|
| 1    | 継続    | ERASMUS MUNDUS英語授業・現代日本論                       | 文学研究科               | -                                   | 8単位以上                      | M・D               |           |
| 2    | 継続    | 医科学修士の健康医療問題解決能力の涵養                            | 医学系研究科（医科学専攻）       | -                                   | 8単位以上                      | M                 |           |
| 3    | 継続    | 高度がん医療人材育成プログラム                                | 医学系研究科（保健学専攻）       | 薬学、核物                               | 8単位以上                      | M・D               |           |
| 4    | 継続    | まちづくりデザイン学                                     | 工学研究科               | CSCD                                | 8単位以上                      | M                 |           |
| 5    | 継続    | 環境リスク管理学                                       | 工学研究科               | 人間、経済、CSCD                          | 8単位以上                      | M                 |           |
| 6    | 継続    | 言語情報処理の手法と展開（旧：応用自然言語処理理論と技術）                  | 言語文化研究科             | -                                   | 8単位以上                      | M・D               | プログラム名称変更 |
| 7    | 継続    | グローバルリーダーシップ・プログラム                             | 国際公共政策研究科           | -                                   | 8単位以上                      | M・D               |           |
| 8    | 継続    | IT Spiral                                      | 情報科学研究科             | -                                   | 14単位以上                     | M1                |           |
| 9    | 継続    | 高度情報ネットワーク実践スペシャリスト                            | 情報科学研究科             | -                                   | 8単位以上                      | M                 |           |
| 10   | 継続    | インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践                     | 留学生センター             | 言文                                  | 8単位以上                      | M・D               |           |
| 11   | 継続    | 臨床工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム：専門科                   | 臨床工学融合研究教育センター      | 医学系、歯学、薬学、工学、基礎工、情報、実践、CSCD         | 9単位以上                      | M・D               |           |
| 12   | 継続    | 臨床工学・情報学融合領域の人材育成教育プログラム：高度職業人育成科              | 臨床工学融合研究教育センター      | 経済、医学系、薬学、CSCD                      | 10単位以上<br>11単位以上<br>11単位以上 | M・D<br>M・D<br>M・D |           |
| 13   | 継続    | コミュニケーションデザイン                                  | コミュニケーションデザイン・センター  | 文学、人間                               | 8単位以上                      | M・D               |           |
| 14   | 継続    | 金融・保険                                          | 金融・保険教育研究センター       | 経済、理学、基礎工、情報                        | 8科目以上                      | M・D               |           |
| 15   | 継続    | グローバル共生                                        | グローバルコラボレーションセンター   | 人間、法学、言文、国際、CSCD                    | 10単位以上                     | M・D               |           |
| 16   | 継続    | 人間の安全保障と開発（旧：人間の安全保障・社会開発）                     | グローバルコラボレーションセンター   | 人間、経済、医学系、薬学、工学、国際、実践、CSCD          | 8単位以上                      | M・D               | プログラム名称変更 |
| 17   | 継続    | 司法通訳翻訳論                                        | グローバルコラボレーションセンター   | 人間、法学、言文                            | 10単位以上                     | M・D               |           |
| 18   | 継続    | サステナビリティ学                                      | サステナビリティデザイン・センター   | 人間、法学、経済、医学系、理学、工学、基礎工、国際、CSCD      | 8単位以上                      | M・D               |           |
| 19   | 継続    | ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム（博士前期課程高度学際教育）  | ナノサイエンスデザイン教育研究センター | 理学、医学系、薬学、工学、基礎工、生命、産研、接合、超高压、極限、太陽 | 9単位以上                      | M                 |           |
| 20   | 継続    | ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム（博士後期課程社会人特別選抜） | ナノサイエンスデザイン教育研究センター | 理学、医学系、薬学、工学、基礎工、生命、産研、接合、超高压、極限、太陽 | 9単位以上                      | D                 |           |
| 21   | 新規    | アート・メディアロジ入門講座 - 理論と実践                         | 文学研究科               | -                                   | 8単位以上                      | M                 |           |
| 22   | 新規    | 認知脳システム学                                       | 基礎工学研究科             | 人間、医学系、工学                           | 10単位以上                     | M・D               |           |
| 23   | 新規    | 高度溶接技術者プログラム                                   | 工学研究科               | -                                   | 10単位以上                     | M・D               |           |
| 24   | 新規    | 学際光科学                                          | 工学研究科               | 理学、基礎工                              | 8単位以上                      | M・D               |           |
| 25   | 新規    | 光通信及びフォトニックネットワーク工学                            | 工学研究科               | -                                   | 8単位以上                      | M                 |           |
| 26   | 新規    | 感染症学免疫学融合プログラム                                 | 微生物病研究所             | 医学系、免疫学                             | 8単位以上                      | D                 |           |
| 27   | 新規    | 現代中国研究                                         | グローバルコラボレーションセンター   | 文学、人間、法学、経済、言文、国際                   | 8単位以上                      | M・D               |           |

受講対象者 M・・・博士前期課程・修士課程・生命機能研究科は博士課程1・2年生  
D・・・博士後期課程・博士課程・生命機能研究科は博士課程3年生以上

## 平成 22 年度 大学院科目等履修生高度プログラム提案書一覧

| 整理番号 | 新規・継続 | プログラム名称                                | 提案部局                | 連携部局                                | 修了単位数  | 履修対象者  | 履修期間                              |
|------|-------|----------------------------------------|---------------------|-------------------------------------|--------|--------|-----------------------------------|
| 1    | 継続    | ERASMUS MUNDUS英語授業・現代日本論               | 文学研究科               | -                                   | 8単位以上  | 学士号取得者 | 2年                                |
| 2    | 継続    | 環境リスク管理学                               | 工学研究科               | 人間、経済、CSCD                          | 10単位以上 |        | 1年                                |
| 3    | 継続    | 金融・保険                                  | 金融・保険教育研究センター       | 経済、理学、基礎工、情報                        | 8科目以上  | 社会人    | スタンダード・プログラム:3年<br>アドバンス・プログラム:4年 |
| 4    | 継続    | ナノサイエンス・ナノテクノロジー高度学際教育研究訓練プログラム(社会人教育) | ナノサイエンスデザイン教育研究センター | 理学、医学系、薬学、工学、基礎工、生命、産研、接合、超高压、極限、太陽 | 9単位以上  | 社会人    | 2年                                |
| 5    | 新規    | アート・メディア・デザイン入門講座 - 理論と実践              | 文学研究科               | -                                   | 8単位以上  | 学士号取得者 | 1年                                |
| 6    | 新規    | 言語情報処理の手法と展開                           | 言語文化研究科             | -                                   | 8単位以上  |        | 1年                                |
| 7    | 新規    | インターカルチュラル・コミュニケーションの理論と実践             | 留学生センター             | 言文                                  | 8単位以上  |        | 1年                                |
| 8    | 新規    | 医科学修士の健康医療問題解決能力の涵養                    | 医学系研究科(医科学専攻)       | -                                   | 8単位以上  | 社会人    | 1年                                |

## 共通教育に関する懇談会

平成 21 年 12 月 24 日(木)に、平成 21 年度の「共通教育に関する懇談会」が開催されました。今回は、総長、理事・副学長、共通教育に関係する全部局長の他に、全学共通教育を担うコミュニケーションデザイン・センター、グローバルコラボレーションセンター、学際融合教育研究センターも参加し、新設された「ステューデント・コモンズ」のセミナー室で懇談が行われました。

全学出動体制による共通教育の堅持についての総長からの要請、本学における全学教育の現状と将来についての理事・副学長による報告の後、大学教育実践センターより、第 1 期中期計画の達成状況、今年度の活動報告、第 2 期中期計画などについて報告が行われ、本学の全部局が共通教育を考えるための重要な機会となりました。



## 新型インフルエンザ対応の追試験の実施

文部科学省と国立大学協会による通知を踏まえ、本学の個別学力検査(一般入試)は以下の日程で実施されます。新型インフルエンザの流行に対応するための追試験は、今年度限りの特例措置として行われます。

前期日程 本試験...2月25日(木)26日(金)

追試験...3月3日(水)

【歯学部は3月2日(火)】

後期日程 本試験...3月12日(金)13日(土)14日(日)

追試験...3月18日(木)

なお、大学入試センター試験は以下の通り実施されました。

本試験...1月16日(土)17日(日)

追試験...1月30日(土)31日(日)

本年度の多大な入試業務に協力いただいた教職員の方々に感謝します。

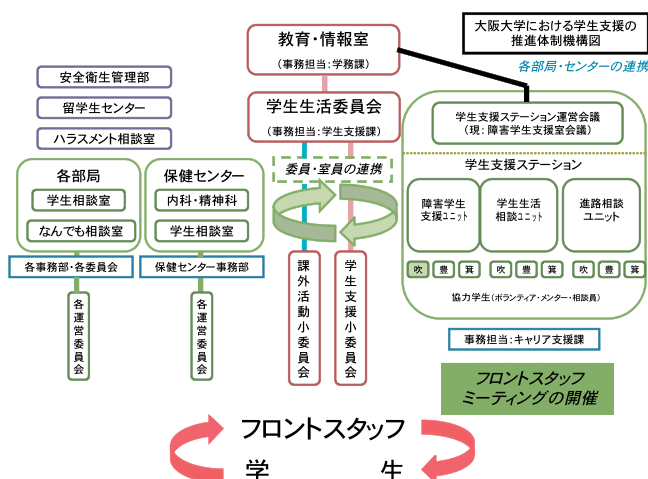
## 「学生支援ステーション」の開設

学生生活に関する相談や修学支援の全学的な対応は、これまで「学生生活相談室」、「障害学生支援室」、「就職相談室」の3室で行ってきましたが、3室の連携強化や学内の関係部署とのネットワーク構築が喫緊の課題となっていました。そのため、3室を統合する支援体制として「学生支援ステーション」を教育・情報室の下に置き、その活動拠点としての「学生支援コミュニティスペース」を、豊中地区学生交流棟2階に設置しました。

この「学生支援ステーション」は、単なる事務窓口ではなく、情報収集・発信機能を併せ持った学生支援のハブを意味します。学生の相談を「待つ」という受け身の体制から、「聞き出す」能動的な体制への変革が意図されています。

図のように「学生支援ステーション」には、学生生活相談、進路相談、障害学生支援の業務を行う3つのユニットを置き、それらを総括する統括リーダー（教育・情報室員）、サブリーダー、各ユニット担当で構成されています。

今後の活動方針としては、学生、教職員、学外の関係者とのネットワーク構築、「フロントスタッフミーティング」開催による学内関係部署のスタッフとの連携強化、「学生支援ステーション」の機能を学生・教職員に周知する広報活動の3点が重要課題となります。



## 遠隔講義システムによるキャンパスのネットワーク化

急速に成長してきた大阪大学は、吹田、豊中、箕面、中之島の4カ所に分かれ、このようなキャンパス間の距離と分散が、授業や研修、また会議の開催などにとって障害となりつつあります。また、社会人が集まりやすい中之島センターには学生が集まりにくく、吹田や豊中には社会人が通いにくい、そのため社会人向けの活動などを進めにくいという、キャンパスの位置が必然的にもたらず難しさもあります。

導入予定のPCS-XG80



こうした問題を情報通信技術により軽減するとともに、キャンパスと世界各地を結ぶ情報インフラを整備し国際化を推進するため、下表のように学内の6カ所を結ぶ遠隔講義システムを導入して各キャンパスをネットワーク化します。この遠隔講義システムの運用は、平成22年3月下旬に開始する予定です。高精細・高品質のハイビジョン映像に対応していますので、効果の大きな設備となることが期待されます。

| 遠隔講義システムの設置 |                            |
|-------------|----------------------------|
| 吹田キャンパス     | 工学研究科 U3・311（講義室）          |
|             | コンベンションセンター 第3会議室          |
| 豊中キャンパス     | サイバーメディアセンター 豊中教育研究棟 7F会議室 |
|             | 文系総合棟 401教室                |
| 箕面キャンパス     | 総合研究棟 6Fプロジェクトルーム          |
| 中之島センター     | 中之島センター 7Fセミナー室            |

## 附属図書館ラーニング・コモンズの設置と図書館利用の拡大

学生が主体的に学ぶ新しい環境を創るため、平成21年4月に理工学図書館（吹田）6月に総合図書館（豊中）に「ラーニング・コモンズ」が新設されました。これにより、下表のように、前年と比較して入館者数・貸出冊数とも大幅に増加しました。サイバー上の電子資料と館内の紙媒体資料の双方を活用し、学生同士で議論しながら協調型の学習が行われてい

ます。またラーニング・コモンズでは、TAと図書館職員のチームによる利用支援やさまざまな講習会も実施されています。

本格的なラーニング・コモンズの設置は、国立大学の先駆的事例となり、開設以来半年あまりの見学者は、総合図書館で43機関（団体）1,769名、理工学図書館で16機関（団体）2,122名に上っています。

附属図書館の利用状況の変化（6月～12月の比較）



## 研究・産学連携室

### 研究企画ワーキング・グループ支援プログラムの学内公募

研究・産学連携室では、生命科学・生命工学、ナノサイエンス・ナノテクノロジー各研究推進機構とともに室の下に研究企画ワーキング・グループを設置して研究の推進をはかっており、平成20年度からは生命科学・生命工学、ナノサイエンス・ナノテクノロジー、脳情報学、光科学、地球環境資源エネルギー科学の5つの分野の研究企画ワーキング・グループにより、研究におけるグランドデザインあるいは大型の競争的資金等を獲得するため部局横断型の研究プロジェクト等を提案し内容の検討を進めてまいりました。

なお、今年度末で生命科学・生命工学、ナノサイエンス・ナノテクノロジー各研究推進機構が廃止と

なり、前述の5つの研究企画ワーキング・グループの活動も約2年を経過することから、第二期中期目標・中期計画期間を迎えるに際し、本学の研究力を強化するため、改めて研究企画ワーキング・グループの在り方の検討を進めてきたところ、研究・産学連携室会議において、研究企画ワーキング・グループは、特定の研究分野を定めず、大型の競争的資金等の獲得を目指して設置することとし、広く学内から部局横断的、学際・融合的な研究企画ワーキング・グループ支援プログラムを提案いただくことになりました。

現在、学内公募中で3月10日（水）を期限としています。

## 大阪大学研究懇話会について

今回で15回目となる大阪大学研究懇話会を、3月16日(火)に中之島センターで開催します。これは、主として関西の企業等に対して大阪大学における研究活動等の情報を提供するとともに、本会を通して企業等から研究者等人材の養成、共同研究の実施など本学に対する要望等を受け、本学の教育研究に反映することを目的としています。

今回のテーマは、「大学・企業の実環境問題への取り組み」とし、総長の開会の挨拶の後、本学において環境問題に詳しい理事、教員による講演のほか西日本電信電話株式会社代表取締役副社長の伊東則昭様からご講演をいただきます。

## JUNBA2010「テクノロジーフェア」への参加

1月11日、12日に、「サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク (Japanese University Network in the Bay Area ; JUNBA)」のサミット、シンポジウム、テクノロジーフェアが開催されました。

サミットでは、「The Next Step for Internationalization of Universities」がテーマで議論され、シンポジウムとテクノロジーフェアでは、「Innovative Medicine and Technology」と題して、本学からは3名が医療機器開発、感染症関連技術、再生医療それぞれの分科会で発表しました。

産学連携推進本部はテクノロジーフェアの出席を支援し、本学が技術移転を進めているこれらの分野のシーズについて紹介を行いました。

なお、参加機関は、日本の20大学を始め、全体で34機関、約250名を数えました。

## 第5回イノベーションフォーラムを開催

第5回イノベーションフォーラムを1月22日(金)に千里中央のA & Hホールで開催しました。

これは、一昨年度から産学連携推進本部で取り組んでいる「協働育成型イノベーション創出リーダー養成」事業の一環として、今回は「博士が産業フロントを切り拓く」と題して産業界から望まれる博士像についての基調講演、インターンシップ修了者の体験談、学内外の有識者によるパネルディスカッションと4時間強にわたり熱心な講演・議論が行われました。

教員学生はもとより産業界の方々にも大学の取組をご理解頂き、今後進むべく方向性が確認されました。



## 平成22年度研究支援推進経費・非常勤研究員経費の配分について

研究支援推進経費及び非常勤研究員経費の目的等、配分先及び平成22年度配分額は下記のとおりであり、

研究・産学連携室では、このたび、関係附属施設、センター及び研究所への配分案を決定しました。

| 経費名称     | 目的等                                                                             | 配分先              | 平成22年度配分額  |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------|------------|
| 研究支援推進経費 | 研究プロジェクト等の遂行に必要な技能・技術面での支援者を確保し、本学における学術研究の効果的な推進を図るための経費                       | 関係附属施設、センター及び研究所 | 77,926 千円  |
| 非常勤研究員経費 | 高度な研究能力を持つ若手研究者を特定の共同研究プロジェクト等に参画させ、本学における研究活動の一層の促進を図るとともに研究者としての人材育成に資するための経費 | 関係附属施設、センター及び研究所 | 122,142 千円 |

# 評価室

## 第1期中期目標期間の評価【確定評価】について

平成21年度は、第1期中期目標期間の最終年度にあたります。このため、国立大学法人法に基づき、平成22年度には第1期中期目標期間の評価【確定評価】が行われます。なお、確定評価に係る作業スケジュールは、次のとおりとなっております。

これに伴いまして、昨年来から各部局・関係各室におかれては、教育・研究の現況調査表等について作成をいただいたところです。

2月にはご提出いただいたこれらの書類について、

評価室において内容を精査した後、各部局・関係各室に修正作業等をお願いすることになります。作業スケジュールのとおり今後とも達成状況シートの作成や修正作業等が5月中旬頃まで続きますが、ご協力のほどよろしくお願いします。

平成21年度は第1期中期目標期間の最終年度でありますので、各部局及び各室等におかれては、今一度、21年度計画及び第1期中期計画の各計画が完全に達成できているか十分ご確認ください。

第1期中期目標期間評価【確定評価】作業スケジュール

| 第1期中期目標期間評価【確定評価】作業スケジュール         |                      |                   |  | 第1期中期目標期間（H16～H21） |    |    |    | 第2期中期目標期間（H22～H27） |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|-----------------------------------|----------------------|-------------------|--|--------------------|----|----|----|--------------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|--|
|                                   |                      |                   |  | 平成21年度             |    |    |    | 平成22年度             |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   |                      |                   |  | 1月                 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月                 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |  |
| 文部科学省（国立大学法人評価委員会）                | I 業務運営以降             | 担当                |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | 1 H20年度実施状況概略        | 各室等               |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | 2 H21年度の実施状況         | 各室等               |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | *従前どおり               |                   |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | II 教育研究等             |                   |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | H21年度の実施状況           | 各部局               |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | ◎ 附属病院関係             | 医学部附属病院           |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | *「業務運営以降」方式に準じる。     | 歯学部附属病院           |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | 1 H20年度実施状況概略        | 医学部附属病院           |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | 2 H21年度の実施状況         | 医学部附属病院           |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
| *従前どおり                            | 歯学部附属病院              |                   |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
| 大学評価・学位授与機構（NIA-D-U-E）が行う「教育研究評価」 | I 中期目標の達成状況報告書       | 各室等               |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | II 教育（現況調査表）         | 連合小児発達学研究所        |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | II 研究（現況調査表）         | 連合小児発達学研究所        |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | II 教育（現況調査表）         | 暫定評価済み部局のうち希望部局のみ |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | II 研究（現況調査表）         | 暫定評価済み部局のうち希望部局のみ |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |
|                                   | II 研究（研究業績：SS）【提出必須】 | 暫定評価済み部局          |  |                    |    |    |    |                    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |  |

## 教員基礎データの更新状況について

日頃より教員基礎データの更新については、皆様にご協力いただき誠にありがとうございます。

昨年秋に、全教員に対してデータの更新をお願いしたところ、平成21年12月31日現在での更新率は下表のとおりとなっております。

教員基礎データは、大阪大学教員の教育研究等の

諸活動を示す基本データであり、「大阪大学研究者総覧」に掲載しウェブサイトを通して広く社会に公開しているものであります。

つきましては、全ての教員の皆様が常に最新のデータ更新に努めていただきますよう、引き続きご協力をお願いします。

教員基礎データ更新状況(H21.12.31時点)

全体

| 部局等名                | 常勤教員(教授～助手)小計<br>(※1) |      |         | 常勤教員(特任・寄附講座等)小計<br>(※2) |      |         | 常勤教員(全体)合計<br>(※3) |      |         |
|---------------------|-----------------------|------|---------|--------------------------|------|---------|--------------------|------|---------|
|                     | 在籍人数                  | 更新人数 | 更新割合    | 在籍人数                     | 更新人数 | 更新割合    | 在籍人数               | 更新人数 | 更新割合    |
| 文学研究科               | 101                   | 101  | 100.00% | —                        | —    | —       | 101                | 101  | 100.00% |
| 人間科学研究科             | 90                    | 73   | 81.11%  | 6                        | 5    | 83.33%  | 96                 | 78   | 81.25%  |
| 経済学研究科              | 54                    | 42   | 77.78%  | —                        | —    | —       | 54                 | 42   | 77.78%  |
| 法学研究科               | 36                    | 30   | 83.33%  | —                        | —    | —       | 36                 | 30   | 83.33%  |
| 理学研究科               | 220                   | 172  | 78.18%  | 4                        | 1    | 25.00%  | 224                | 173  | 77.23%  |
| 医学系研究科(附属病院含む)      | 480                   | 412  | 85.83%  | 121                      | 87   | 71.90%  | 601                | 499  | 83.03%  |
| 歯学研究科(附属病院含む)       | 131                   | 89   | 67.94%  | 1                        | 0    | 0.00%   | 132                | 89   | 67.42%  |
| 薬学研究科               | 51                    | 49   | 96.08%  | 4                        | 4    | 100.00% | 55                 | 53   | 96.36%  |
| 工学研究科               | 442                   | 410  | 92.76%  | 51                       | 27   | 52.94%  | 493                | 437  | 88.64%  |
| 基礎工学研究科             | 178                   | 135  | 75.84%  | 12                       | 9    | 75.00%  | 190                | 144  | 75.79%  |
| 言語文化研究科             | 87                    | 73   | 83.91%  | 6                        | 2    | 33.33%  | 93                 | 75   | 80.65%  |
| 国際公共政策研究科           | 33                    | 32   | 96.97%  | —                        | —    | —       | 33                 | 32   | 96.97%  |
| 情報科学研究科             | 82                    | 79   | 96.34%  | 12                       | 12   | 100.00% | 94                 | 91   | 96.81%  |
| 生命機能研究科             | 65                    | 50   | 76.92%  | 16                       | 5    | 31.25%  | 81                 | 55   | 67.90%  |
| 高等司法研究科             | 25                    | 23   | 92.00%  | —                        | —    | —       | 25                 | 23   | 92.00%  |
| 連合小児発達学研究科          | 8                     | 8    | 100.00% | —                        | —    | —       | 8                  | 8    | 100.00% |
| 微生物病研究所             | 64                    | 36   | 56.25%  | 23                       | 9    | 39.13%  | 87                 | 45   | 51.72%  |
| 産業科学研究所             | 101                   | 96   | 95.05%  | 21                       | 17   | 80.95%  | 122                | 113  | 92.62%  |
| 蛋白質研究所              | 43                    | 36   | 83.72%  | 4                        | 1    | 25.00%  | 47                 | 37   | 78.72%  |
| 社会経済研究所             | 17                    | 15   | 88.24%  | 4                        | 4    | 100.00% | 21                 | 19   | 90.48%  |
| 接合科学研究所             | 29                    | 29   | 100.00% | 5                        | 4    | 80.00%  | 34                 | 33   | 97.06%  |
| 低温センター              | 2                     | 2    | 100.00% | —                        | —    | —       | 2                  | 2    | 100.00% |
| 超高压電子顕微鏡センター        | 4                     | 4    | 100.00% | 2                        | 2    | 100.00% | 6                  | 6    | 100.00% |
| ラジオアイソトープ総合センター     | 2                     | 2    | 100.00% | —                        | —    | —       | 2                  | 2    | 100.00% |
| 環境安全研究管理センター        | 3                     | 3    | 100.00% | —                        | —    | —       | 3                  | 3    | 100.00% |
| 留学生センター             | 12                    | 11   | 91.67%  | 4                        | 4    | 100.00% | 16                 | 15   | 93.75%  |
| 生物工学国際交流センター        | 5                     | 5    | 100.00% | —                        | —    | —       | 5                  | 5    | 100.00% |
| 極限量子科学研究センター        | 7                     | 5    | 71.43%  | 1                        | 1    | 100.00% | 8                  | 6    | 75.00%  |
| 太陽エネルギー化学研究センター     | 4                     | 4    | 100.00% | 1                        | 1    | 100.00% | 5                  | 5    | 100.00% |
| 総合学術博物館             | 6                     | 5    | 83.33%  | —                        | —    | —       | 6                  | 5    | 83.33%  |
| 大学教育実践センター          | 22                    | 21   | 95.45%  | —                        | —    | —       | 22                 | 21   | 95.45%  |
| 先端科学イノベーションセンター     | 13                    | 12   | 92.31%  | 8                        | 3    | 37.50%  | 21                 | 15   | 71.43%  |
| 保健センター              | 13                    | 11   | 84.62%  | —                        | —    | —       | 13                 | 11   | 84.62%  |
| 臨床医工学融合研究教育センター     | —                     | —    | —       | 23                       | 18   | 78.26%  | 23                 | 18   | 78.26%  |
| コミュニケーションデザイン・センター  | 9                     | 7    | 77.78%  | 10                       | 4    | 40.00%  | 19                 | 11   | 57.89%  |
| 金融・保険教育研究センター       | —                     | —    | —       | 3                        | 2    | 66.67%  | 3                  | 2    | 66.67%  |
| 科学教育機器リノベーションセンター   | 2                     | 1    | 50.00%  | —                        | —    | —       | 2                  | 1    | 50.00%  |
| グローバルコラボレーションセンター   | 3                     | 2    | 66.67%  | 7                        | 5    | 71.43%  | 10                 | 7    | 70.00%  |
| 世界言語研究センター          | 55                    | 50   | 90.91%  | 26                       | 23   | 88.46%  | 81                 | 73   | 90.12%  |
| 日本語日本文化教育センター       | 19                    | 14   | 73.68%  | —                        | —    | —       | 19                 | 14   | 73.68%  |
| サステナビリティ・サイエンス研究機構  | —                     | —    | —       | 4                        | 4    | 100.00% | 4                  | 4    | 100.00% |
| ナノサイエンスデザイン教育研究センター | —                     | —    | —       | 5                        | 5    | 100.00% | 5                  | 5    | 100.00% |
| 核物理研究センター           | 17                    | 15   | 88.24%  | 3                        | 2    | 66.67%  | 20                 | 17   | 85.00%  |
| サイバーメディアセンター        | 23                    | 18   | 78.26%  | 5                        | 5    | 100.00% | 28                 | 23   | 82.14%  |
| レーザーエネルギー学研究センター    | 28                    | 27   | 96.43%  | 1                        | 0    | 0.00%   | 29                 | 27   | 93.10%  |
| 免疫学フロンティア研究センター     | —                     | —    | —       | 22                       | 6    | 27.27%  | 22                 | 6    | 27.27%  |
| 学際融合教育研究センター        | 1                     | 0    | 0.00%   | 2                        | 2    | 100.00% | 3                  | 2    | 66.67%  |
| その他                 | 19                    | 13   | 68.42%  | 15                       | 11   | 73.33%  | 34                 | 24   | 70.59%  |
|                     | 2606                  | 2222 | 85.26%  | 432                      | 285  | 65.97%  | 3038               | 2507 | 82.52%  |

更新人数について:4/1から12/31までの期間に、教員基礎データにおいて、データを登録・更新した人の数

(※1) 対象者は12/1時点において、「教授」、「准教授」、「講師」、「助教」、「助手」である教員(総長、副学長含む)

(※2) 対象者は寄附講座・寄附研究部門教員、特任教員(常勤)である教員

(※3) (※1)と(※2)の合計

## 財務室

### 平成21年度教育研究等重点推進経費の執行計画について

「教育研究等重点推進経費」の第3次執行計画（案）及び第4次執行計画（案）が承認され、採択事業は以下のとおりです。

#### 第3次執行計画

| 部 局 等 名 | 事 項 名                       |
|---------|-----------------------------|
| 国際交流室   | 海外拠点本部（上海教育研究センター）設置に伴う必要経費 |
| 執行計画額   | 計 6,597 千円                  |

#### 第4次執行計画

| 部 局 等 名           | 事 項 名                                            |
|-------------------|--------------------------------------------------|
| 附属図書館             | 総合図書館個人学習ブース等整備                                  |
| 国際交流室             | 国際交流会館吹田分館カードロックシステムの更新                          |
| 研究・産学連携室          | 研究成果実用化促進のためのシーズ育成支援経費                           |
| サイバーメディアセンター      | CALL 端末利用方法の変化に伴うシステム構成の変更                       |
| 学生部               | 本部事務機構地下1階学生窓口整備                                 |
| 留学生センター           | 留学生センター留学生交流情報室（IRIS）絨毯張替え                       |
| 微生物病研究所           | 凍結切片作製機の要求                                       |
| サイバーメディアセンター      | オンライン英語リスニング教材配信システムの改修および導入                     |
| 附属図書館             | 総合図書館A棟防犯カメラ設置                                   |
| 留学生センター           | 情報機器を用いた日本語教育および情報関連教育の活性化のための環境整備               |
| 核物理研究センター         | 基礎物理・医学・工学に用いる大強度中性子場の開発研究                       |
| 産業科学研究所           | 産研インキュベーション棟講義室の設備整備経費                           |
| 科学教育機器リノベーションセンター | ガラス工作実習のための遮光設備の設置                               |
| 日本語日本文化教育センター     | 日本語・日本文化教育用映像設備更新                                |
| 薬学研究科             | 創薬推進教育の充実に向けた環境整備                                |
| 文学研究科             | 「デザイン力」育成・向上のためのメディア教育研究活動の設備更新経費                |
| 生命機能研究科           | 動物施設の空調機更新                                       |
| 附属図書館             | 学生等図書館利用者への貸し出し用ノートパソコンの整備（外国学図書館）               |
| 科学教育機器リノベーションセンター | 学生・研究者支援のための環境整備                                 |
| 産業科学研究所           | 固体試料質量分析装置の増強ユニット購入経費                            |
| 大学教育実践センター        | 健康・スポーツ教育科目の設備更新                                 |
| 医学系研究科            | 機能系実習（基礎医学実習）環境の整備                               |
| 理学研究科             | 新しい教育体制の試み - 「生命理学コース」設置に伴う新規実験科目「生命理学実験」の立ち上げ - |
| 歯学研究科             | 学生教育、実習用のカルシウム解析システム                             |
| 人間科学研究科           | グローバル人間学専攻における大学院生室の整備                           |
| 法学研究科・国際公共政策研究科   | 計量政治法学の教育環境整備                                    |
| 附属図書館             | 電子ジャーナルバックファイルの購入                                |
| 医学系研究科            | 環境モニタリングシステム                                     |
| 理学研究科             | 大学院統合理学先端教育（G30）の推進                              |
| 歯学研究科             | 共焦点レーザー顕微鏡の整備                                    |
| 生命機能研究科           | 凍結試料予備観察用光学顕微鏡                                   |
| 薬学研究科             | 先導的薬剤師養成に向けたチーム医療教育環境の整備                         |
| 執行計画額             | 計 282,496 千円                                     |

## 「学内予算の在り方等に係る基本方針」の策定について

「学内予算の在り方等に係る基本方針」を取りまとめました。

これは、学内予算全体の考え方や戦略的経費等の枠組みなどに関する中長期的な方向性を示したものであり、今後、財務室においてはこの方針に基づき、より一層効果的な学内予算の編成を行っていく予定です。

であり、今後、財務室においてはこの方針に基づき、より一層効果的な学内予算の編成を行っていく予定です。

### 学内予算の在り方等に係る基本方針

本書は、「中長期予算の財務構想について」の提言を踏まえ、本学の財務的資源のあり方や学内予算の編成・配分について財務室で議論を重ね、その骨子を箇条書きに整理し、最終報告としてまとめたものである。

具体的な方針を述べるに先立ち、今更であるが、本学の予算は、教育研究等の活動を確実に実施し、かつ、更なる挑戦的な発展のために資するものであり、個々の予算単位の組織に配分・執行されるものであっても、大阪大学全体としての資源投資であることを、関係各位に再度認識していただくことをお願いする。

#### 1. 検討の視点

大阪大学が扱う財源と経費の種類とそれぞれの使途を明確にし、それらの予算策定の柱となる3つの視点を述べる。

○ 本学の教育研究等活動の財源としては 運営費交付金、自己収入（附属病院収入を除く学納金等）、附属病院収入、競争的資金などの外部資金があるが、それぞれ運営費交付金及び自己収入（以下「運営費交付金等」という。）は本学の維持・運営、附属病院収入は各附属病院の一般診療の実施、競争的資金などの外部資金は本学の重要プロジェクトの実施、間接経費は本学全体の戦略的な事業の実施及び部局の運営のために使用することを基本とする。

○ 運営費交付金のうち特別経費で要求する事業は新たな教育研究事業を実施する上で、

- ・ 国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実
- ・ 高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実
- ・ 大学の特性を生かした多様な学術機能の充実
- ・ 産学連携機能の充実

に向けた基礎・基盤的な事業であり、学内予算で措置する事業及び競争的資金などの外部資金で措置する事業とを明確に区分し財源を獲得する。

#### (1) 学内配分予算の考え方

- ・ 本学の基礎・基盤的な教育研究等活動を維持するため、部局への配分予算は現状の確保を基本とした上で検証等を反映
- ・ 運営費交付金のみに依存するのではなく、外部資金を積極的に獲得し大阪大学全体の活動経費を確保
- ・ 予算区分を明確にし、教職員が理解しやすい仕組みを構築
- ・ 附属病院については、大学病院の使命を踏まえ、病院経営に配慮した予算の仕組みを構築

#### (2) 戦略的経費等の考え方

- ・ 戦略的経費及び共通的な経費（以下「戦略的経費等」という。）の財源確保と柔軟な仕組みを構築
- ・ 戦略的経費等をその目的を明確にした5区分に大別し、本学の種々の教育研究等活動のうち、各々の目的に該当する事業に対して配分

#### (3) 財務面からの検証に基づく予算配分

- ・ 予算配分に当たり、教育研究等の活動に十分配慮しつつ、各事業の個性ある発展を促す観点から、その執行状況等について検証しその結果を可能な限り次年度予算へ適切に反映
- ・ 検証は、当面は、物品・役務等の調達や管理的経費を中心に導入することとし、教育研究等活動の状況については、今後、慎重に検討した上で導入
- ・ 上記にかかわらず戦略的経費等の予算により実施される諸活動や附属病院等については、あらかじめ策定された事業計画などを基に検証
- ・ 予算の効果的な配分等の観点からスクラップアンドビルドを徹底
- ・ 事業の成果及び適切な資源配分となっているかなどの検証プロセスの透明性を確保

#### 2. 制度設計の方針

##### (1) 総論

- ・ 収入の規模を基礎とし、支出予算を編成する。
- ・ 収入に不足が生じる場合には、部局の教育研究等の活動に配慮しつつ部局への予算配分額を縮小する方向で検討する。
- ・ 国からの補助金等に係る間接経費については、当面は部局分と全学的間接経費分とを同割合とするが、将来における財源の動向により、その変更もあり得るものとする。

- ・各部局に配分された予算について、計画的なものであれば繰り越しも可能とする。
  - ・附属病院については、より弾力的な運営が可能となるようある程度の裁量を委ねる。この観点から、経営努力により収入が目標を上回った場合については、従来の取り扱いの通り、附属病院の諸活動に充当できる仕組みを検討する。
- (2) 予算区分等
- ・人件費と物件費に大別する。
- (人件費)
- ・医学部附属病院に係るものを除いて、第 1 期中期目標期間と同様に一括経費とし、本部事務機構で執行管理する。
  - ・医学部附属病院に係るものについては、その運営に必要な額を一括経費として同病院に配分する。
  - ・退職手当は次期中期目標期間における運営費交付金算定ルールの変向により別途検討する。
- (物件費)
- ・各部局の維持・運営のための「管理運営経費」、個々の教員の教育研究等活動のための基礎・基盤的な「教育研究基盤経費」、本学の挑戦的発展を目指す「戦略的経費」、附属病院の一般診療のための「診療経費」、「概算要求事項」などに大別し、使途を明確にし、かつ教職員に理解しやすい区分に見直す。
  - ・附属病院における施設、設備の更新に必要な借入金に係る予算は、経営面における総合的かつ的確な企画立案を可能とする観点から各附属病院へ配分する。
- (3) 予算積算等
- ・上記予算区分のうち、物件費に係る予算積算及び配分の方法は次の通りとする。また、その執行状況等についての検証を可能な限り次年度予算に反映させる。
- (管理運営経費)
- ・従来行ってきた個々の積算は行わず、前年度予算配分実績を基に効率化係数等を加味した額を一括経費として配分する。
- (教育研究基盤経費)
- ・教員及び学生の員数に別途設定する単価を乗じた額に、毎年度設定する配分率を加味した額を一括経費として配分する。
- (戦略的経費等)
- ・大学基盤推進経費、教育研究等重点推進経費、全学強化経費、全学維持経費、法人本部等経費の 5 区分（別紙 1 参照）とし、各経費の目的を明確にした上でその規模を毎年度決定し、部局等からの申請に応じて必要額を配分する。
- (診療経費)
- ・附属病院の一般診療に必要な経費を積算したうえで一括経費として配分する。
- (4) 各経費の財源（別紙 2 参照）
- ・各経費の財源は次の通りとする。

| 区 分         |                                            | 財 源                         |
|-------------|--------------------------------------------|-----------------------------|
| 人<br>件<br>費 | 医学部附属病院                                    | 運営費交付金等<br>附属病院収入（医学部附属病院分） |
|             | 上記以外のもの                                    | 運営費交付金等                     |
| 物<br>件<br>費 | 管理運営経費                                     | 運営費交付金等                     |
|             | 教育研究基盤経費                                   | 運営費交付金等                     |
|             | 診療経費                                       | 運営費交付金<br>附属病院収入            |
|             | 戦略的経費等                                     | 運営費交付金等                     |
|             | 大学基盤推進経費                                   | 間接経費<br>奨学寄附金（教育研究等支援事業経費）  |
|             | 教育研究等重点推進経費<br>全学強化経費<br>全学維持経費<br>法人本部等経費 | 運営費交付金等<br>間接経費<br>運営費交付金等  |

- (5) 戦略的経費等の目的等
- ・上記 5 区分の目的は（別紙 1）の通りとし、要求等に当たっての基本的な考え方は以下によるものとする。
  - ・大学基盤推進経費は、総長の所信に沿ったもの、一方、教育研究等重点推進経費及び全学強化経費は、中期目標・中期計画や活動方針など全学統一的な方針に沿ったものであること。
  - ・要求に当たっては、各経費の目的に沿い、かつ、概算要求や外部資金など他の経費との整合性を踏まえたものであること。

- ・要求の時期は、原則として、年度開始前の一定の時期とし、年度途中から開始する事業も含め計画的なものであること。
- ・平成22年度の学内予算の編成に当たっては、各経費の目的に沿った内容となるよう、既存の措置内容を見直す。

### 3. 財務面からの検証に基づく予算配分（別紙3参照）

#### （1）検証の目的及び観点

- ・検証は、本学で行われる教育研究等活動の向上のため、効果・効率的な予算配分となっているかなどについて行い、次年度以降の予算の有効な活用を図ることを目的とする。
- ・当面は、管理的経費については、財務面から見た抑制努力、節減努力等、戦略的経費等については、あらかじめ提出された事業計画に基づき措置された予算について、当初想定した効果が得られたかの観点から検証を行うこととし、教育研究等活動により直接関連しているものについては、今後慎重に検討する。

#### （2）検証の方法

- ・検証は、管理的経費については、経費の節減努力などの把握・分析、戦略的経費等については、計画と実績との対比等の方法により行うこととするが、その具体については、今後検討する。
- ・上記検証は、外部資金の使用状況をも把握した上で実施する。
- ・また、決算面において、各部局間の横断的な検証が可能となる仕組みを検討する。

#### （3）検証結果の反映方策（インセンティブ）

- ・各部局の努力が報いられるよう検証結果を反映し、インセンティブを付与する仕組み及び反映する事項、方法を検討する。

#### （4）情報開示

- ・配分結果等を部局に公表する。
- ・財務内容を広く公表・公開する。

## 戦略的経費等の区分と目的

（別紙1）

|             |                                                                                                                                                                                                     |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学基盤推進経費    | 大阪大学の教育研究等の機能維持や向上のため、あるいは新事業の導入を目指して、総長自らの考えに基づき機動的に措置される経費。                                                                                                                                       |
|             | （説明）<br>総長の所信に基づき自ら又は部局等からの申請に基づいて、措置されるもの。                                                                                                                                                         |
| 教育研究等重点推進経費 | 大阪大学の将来の方向性を見据えた上で、本学の教育研究等の発展に寄与する全学的・部局横断的な事業、あるいは単独部局であっても将来の新展開を目指した事業に対して措置する経費。                                                                                                               |
|             | （説明）<br>大学全体の将来の方向性を見据えた上で、本学の教育・研究の水準向上につながるような先導的・萌芽的な取組等に関わる戦略的な事業であること。<br>また、単独部局における事項であっても、大学全体の将来の新展開を目指した事業であれば措置される。<br>事業に対しては、単年度を基本として財務室が中心となり決定する。                                   |
| 全学強化経費      | 大阪大学の教育研究等の機能強化や発展に必須な全学共通的な事業であり、大学運営組織の各室又は全学委員会等が企画・統括するものに充当する経費。                                                                                                                               |
|             | （説明）<br>本学全体の現状をより強化発展させるために必須な全学共通経費で、大学運営組織の各室又は全学委員会等においての企画のもとに運営される事業に対して充当する経費であり、事業の展開によっては、継続的な事業もあり得る。<br>この経費での措置後、経常的なものとして全学維持経費に組み替えることもあり得る。<br>事業には時限を付し、事業の遂行によりスクラップ・アンド・ビルドを徹底する。 |
| 全学維持経費      | 大阪大学の教育研究等の根幹において、全学共通の運営や教育研究等の維持に経常的に必要なものに充当する経費。                                                                                                                                                |
|             | （説明）<br>本学において、経常的に措置しなければ、大学の教育・研究等の機能の根幹に支障を及ぼす恐れがあるものに充当されるもの。                                                                                                                                   |
| 法人本部等経費     |                                                                                                                                                                                                     |
|             | （説明）<br>本学の教育研究等の方針策定等を行うに当たって、各室等において必要となる経費について措置されるもの。                                                                                                                                           |

# 大阪大学の財源（収入）と物件費の支出予算の関係

（別紙2）

○財源と支出区分との関係及び支出予算における用途を明確にすることにより、分かりやすくかつ説明責任の果たせる予算構造とする

| 財源（収入）                                    |                             | 支 出                                                                                                                                                                                                                   |                            |
|-------------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 運<br>営<br>費<br>交<br>付<br>金<br>等<br>収<br>入 | 運営費交付金                      | <b>管理運営経費</b><br><i>各部局固有の教育研究等の実施に必要な経費</i>                                                                                                                                                                          | 部<br>局<br>基<br>盤<br>経<br>費 |
|                                           |                             | <b>教育研究基盤経費</b><br><i>教員の基礎・基盤的な教育研究の実施経費</i>                                                                                                                                                                         |                            |
|                                           |                             | <b>診療経費</b><br><i>附属病院の一般診療にかかる経費</i>                                                                                                                                                                                 |                            |
|                                           | 自己収入<br>(学納金、附属病院収入<br>雑収入) | <b>大学基盤推進経費</b><br><i>総長の自らの考えに基づく経費</i><br><b>教育研究等重点推進経費</b><br><i>全学的・部局横断的又は部局の新展開を目指した事業に必要な経費</i><br><b>全学強化経費</b><br><i>教育研究等の機能強化や発展に必須な全学共通的な経費</i><br><b>全学維持経費</b><br><i>教育研究等の根幹において全学共通の運営・維持に経常的な経費</i> | 戦<br>略<br>的<br>経<br>費<br>等 |
|                                           | 運営費交付金<br>(特別経費)            | <b>法人本部等経費</b><br><i>室の運営等に必要な経費</i>                                                                                                                                                                                  |                            |
|                                           |                             |                                                                                                                                                                                                                       |                            |
| 外<br>部<br>資<br>金                          | 受託研究費・受託事業費<br>補助金（機関経理）    | <b>特別経費</b><br><i>本学の重要プロジェクトの推進の基礎・基盤的な経費</i>                                                                                                                                                                        | 特<br>別<br>経<br>費           |
|                                           | 間接経費                        | <b>受託研究等経費</b><br><i>重点プロジェクトの推進のための経費</i>                                                                                                                                                                            |                            |
|                                           | 科学研究費補助金                    |                                                                                                                                                                                                                       |                            |
|                                           | 間接経費                        | <b>科学研究費補助金</b><br><i>個人研究の推進のための経費</i>                                                                                                                                                                               |                            |
|                                           | 民間等との共同研究                   | <b>共同研究費</b><br><i>研究の向上のための経費</i>                                                                                                                                                                                    |                            |
|                                           | 産学官連携推進活動費                  |                                                                                                                                                                                                                       |                            |
|                                           | 奨学寄附金<br>教育研究等支援事業経費        | <b>奨学寄附金</b><br><i>寄附目的にあった使用のための経費</i>                                                                                                                                                                               |                            |

## 各経費に対する検証導入の概要

(別紙3)

| 支出経費                                          |               | 検証導入の有無 |                                           |
|-----------------------------------------------|---------------|---------|-------------------------------------------|
| 管理運営経費<br>各部局固有の教育研究等の実施に必要な経費                | 部局基盤経費        | ←       | 当面管理的経費を中心に実施<br>その際、外部資金の執行状況も把握         |
| 教育研究基盤経費<br>教員の基礎・基盤的な教育研究の実施経費               |               |         | 教育研究に直接必要な経費については、慎重に検討した上で導入             |
| 診療経費<br>附属病院の一般診療にかかる経費                       |               |         | 同上<br>(検証に当たっては、附属病院で行われている自己分析等の資料を基に実施) |
| 大学基盤推進経費<br>総長の自らの考えに基づく経費                    | 戦略的経費等        | ←       | 提出された各事業計画及びその進捗状況を基に実施                   |
| 教育研究等重点推進経費<br>全学的・部局横断的又は部局の新展開を目指した事業に必要な経費 |               |         |                                           |
| 全学強化経費<br>教育研究等の機能強化や発展に必須な全学共通の経費            |               |         |                                           |
| 全学維持経費<br>教育研究等の根幹において全学共通の運営・維持に経常的な経費       |               |         |                                           |
| 法人本部等経費<br>室の運営等に必要な経費                        | 特別経費          | ←       | 効果的な予算配分の観点から、各事業の各経費についての精査を実施           |
| 特別経費<br>本学の重要プロジェクトの推進の基礎・基盤的な経費              |               |         |                                           |
| 受託研究等経費<br>重点プロジェクトの推進のための経費                  |               |         |                                           |
| 科学研究費補助金<br>個人研究の推進のための経費                     |               |         |                                           |
| 共同研究費<br>研究の向上のための経費                          | 学連携・個人研究の推進経費 | ←       | 各々の制度の枠組みの中で別途検証                          |
| 奨学寄附金<br>寄附目的にあった使用のための経費                     |               |         |                                           |
|                                               |               | ←       | 効果的な執行の観点から、各経費についての精査を実施                 |

## 資金運用について

資金運用ワーキング・グループでは、資金需要を考慮した適切な運用金額、運用期間及び運用形態を検討し、長期・短期の資金運用の組み合わせによる効率的な余裕資金の運用を行なっております。

平成22年1月期においても新たな短期資金運用計画を策定し、積極的な運用を行っており、今年度においては、1月末現在で、約1億4千万円を越える運用益を見込んでいます。

## 人事労務室

### 大阪大学第3回男女共同参画シンポジウム「大学における男女共同参画」開催

多様な人材活用推進委員会(委員長:松繁寿和国際公共政策研究科教授)及び女性研究者キャリア・デザインラボは、12月7日(月)、コンベンションセンターにおいて、大阪大学第3回男女共同参画シンポジウム「大学における男女共同参画」を開催しました。

本シンポジウムは、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成プログラム」として採択された『次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成』の活動の一環として行われたもので、本学の教職員や学生をはじめ、他大学、民間企業等の男女共同参画業務担当者など、110名を超える参加が

ありました。

シンポジウム開催にあたり、三原健一委員の総合司会のもと、鷲田総長から開会の挨拶が行われ、新たな第二期中期目標・中期計画に向け、大学構成員全員にとってさらに学びやすく働きやすいキャンパスを目指して、男女共同参画推進に関する「阪大プリンシプル」が宣言されました。また、基調講演として、文部科学省科学技術・学術政策局から小松弥生科学技術・学術総括官をお迎えし、「女性研究者支援は誰のため」と題してご講演いただき、続いて、松繁委員長から「大阪大学における男女共同参画の

#### 男女共同参画推進に関する阪大プリンシプル

1. 女性がいきいきと働けるキャンパスを作り、本学の教育・研究の質を高めます。
2. 総長のリーダーシップのもと構成員全員で取り組みます。
3. ワーク・ライフ・バランスを実現できる体制を作ります。
4. 女性研究者を増やし育てるよう、目標を定め、努力します。

取り組み」、田島節子委員から「大阪大学でのアンケート調査結果」と題する講演がありました。

次に、大阪大学研究支援員制度を利用している教員・研究員から、支援を行っている研究支援員とともに、この制度の利用について現状報告がありました。

また、宇野公之委員の司会によりパネルディスカッションが行われ、小松科学技術・学術総括官にもご参加いただき、大学における男女共同参画について活発な議論が行われました。その後、会場からの質問に対する質疑応答等を経て、盛況のうちに幕を閉じました。



パネルディスカッション（左から宇野委員、小松氏、松繁委員長、田島委員、藤原（千）委員、藤原（康）教授）

### 「大阪大学の開講する授業科目の受講による職員研修」のより一層の活用について

これまでもお知らせしている（2009年2月号及び8月号参照）とおり、本学では、鷲田総長の発案により、常勤職員が大阪大学の開講する授業科目を受講することを可能とする制度を前年度から設けています。

この制度は、総合大学である本学ならではのもの

であり、新年度には新しい授業科目も開設されることから、職員の皆さんのニーズに応えることができるとともに、キャリア・アップ及び資質の向上につながるものと考えています。

興味をお持ちの皆さんは、この機会にシラバスなどを参考にして、ぜひチャレンジしてみてください！

## 広報・社会学連携室

### 中之島センターについて

大阪大学の使命である社会貢献には、これまで実績のある医学部、歯学部附属病院による医療の面からの社会貢献はもとより、産学連携と社会学連携の2つがあります。産学連携活動は、産業界と連携し、ニーズに応じた研究開発や人材交流を通じて研究成果（シーズ）を社会へ還元する大きな役割を担っています。社会学連携活動としては、従来から行ってきた広く地域市民等を対象とした公開講座、講演会などの啓発活動に加えて、近隣社会のさまざまなセクターと手を携えながら、市民の皆さんとともに学び、大阪の文化力の向上を図るといった目的があります。

大阪大学は、中之島センターを大阪大学の社会学連携活動の拠点として明確に位置づけ、「地域に生き世界に伸びる」のモットーを具現化し、大阪の学芸と市民文化の再興のために、大阪大学21世紀懐徳堂を中心とした活動を今まで以上に推進してゆきたいと考えています。そのために、中之島センターマネジメント委員会や関連ワーキング等において、中之島センターの具体的な在り方やCIC（キャンパスイノベーションセンター）の有効利用など検討を進め、中之島地区の活性化にも貢献したいと考えています。

## 第2回大阪大学CSR研究会開催

大阪大学の社会学連携活動は、前述の通り、様々なセクターと手を携えて多様な文化事業を推進してゆく役割を担っています。そのために、CSR（企業の社会的責任）に関して先進的な取り組みをされている企業の関係者を招き、実例をご紹介いただきながら、大阪大学の活動に活かすために学内の各部局から教職員に参加いただく研究会を開催しています。

1月22日(金)には、パナソニック株式会社から、

担当役員である鍛冶舎 巧氏を講師として招き開催しました。今回は、CSR 概念の歴史やその時代に即応した CSR 活動の在り方、特にコンプライアンス、情報開示、リスクマネジメントについて、CSR が経営と切り離すことができないものとして重要な役割を担ってきているとの貴重なお話をいただき、大阪大学が様々な事業を展開する上での参考となる研究会でした。

## 在阪報道関係者との懇談会を開催

2月4日(木)中之島センターにおいて、「在阪報道関係者との懇談会」を開催しました。

今回は、大学からの情報提供と言う形にとらわれず、マスコミ側からの大学に対する要望や率直な意見感想を述べていただき、膝をつき合わせてざっくばらんに議論をする形での開催としました。

本学からは、鷲田総長をはじめ役員等執行部、報道関係者からは12社15名の出席があり、大学とメディアの関わりについてフリーディスカッション形式で相互に活発な意見交換を行いました。



詳しくは、キャンパスニュース55ページをご覧ください。

# 国際交流室

## グローバル30を全学体制で推進

本学が国際化拠点整備事業（通称「グローバル30」、文中では「G30」と略記）に採択されたことについては以前にご紹介しました。この事業の目的は大学の国際化を加速的に進めることにあります。本学は法人化後、国際交流室を設置するなど全学的に国際化に取り組んできています。そうした中でG30への申請・採択は本学の国際化推進に極めて重要な意義を持っており、総長が年頭の挨拶で触れられたように、全学を挙げてこれを推進することとしています。

G30では、その申請要件に、英語だけを使用して学位が取得できる「英語コース」を学部・大学院それぞれに最低1つ新設することが挙げられており、本学は2つの大学院コースと、文系・理系で各1つの学部コース、合計4つの英語コースを新設することとしています。昨年12月まで16回の実務担当者会議を開催して事業の進展を図ってきましたが、大学全体の取り組みであることを一層明確にし、様々な課題に全学的な協力の下で積極的に進めるため、同じく12月からは総長を議長とし、理事ならびに関

連部局長をメンバーとするG30推進協議会を、そしてその下にG30企画調整委員会を組織しました。後者には各英語コースの代表、教育・情報室から小泉室長を始めとし、学生部長も加わった合計6名の室員、国際交流室、国際企画推進本部とともに、学務関係を始めとする様々な課題の解決に当たっています。

学部コースでは最低124単位を取得することが義務付けられています。これに対応するため多数の英語での授業科目を準備し、しかも魅力のあるコースに仕上げることは大変な困難が伴います。それゆえ英語コース設置の必要性については疑問視する意見も聞こえてきます。しかし、G30を本学国際化のまたとない契機と捉え、英語での授業可能科目を大幅に増やすことは、本学の教育・研究を真に世界に開かれた魅力あるものとする上で、また、日本人学生の国際性涵養のためにも大きく貢献するものと確信しています。

グローバル30は大学を挙げての国際化プロジェクトです。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム（若手研究者大航海プログラム）へ4件採択

若手の研究者の海外派遣については、これまでの在外研究員制度の廃止、加えてそのあと実施された海外先進教育研究実践支援制度も廃止される中で、次の補助制度として募集された標記のプログラムについては本学から表1の4件が採択されました。また、全国の採択の状況を表2にまとめましたが、他大学でも多数応募・採択されており、若手研究者に海外

に長期滞在する機会を与えるという、この種の補助事業の必要性が高いことが伺えます。政権が交替して、この制度そのものも次年度は募集がありませんが、新たなプログラムが企画されることもあろうかと思いますので、各部局においていつでも応募できるよう、備えておくようお勧めいたします。

表1 若手研究者大航海プログラム採択結果

|         |         |                                             |
|---------|---------|---------------------------------------------|
| 文学研究科   | 片山 剛教授  | 多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム                      |
| 理学研究科   | 荻原 哲教授  | E U エラスムス・ムンドス計画との基礎科学教育研究国際化協力事業【PHASE II】 |
| 基礎工学研究科 | 宮崎 文夫教授 | 複合学際領域開拓を担う若手人材育成のための国際ネットワーク形成             |
| 医学系研究科  | 磯 博康教授  | 公衆衛生大学院を支える次世代社会疫学エキスパートの養成                 |

表2 7大学別採択件数

|       | 人社系 | 理工農系 | 医療系 | 合計  |
|-------|-----|------|-----|-----|
| 東京大学  | 4   | 10   | 3   | 17  |
| 京都大学  | 2   | 5    | 1   | 8   |
| 名古屋大学 | 0   | 5    | 1   | 6   |
| 東北大学  | 1   | 3    | 1   | 5   |
| 大阪大学  | 1   | 2    | 1   | 4   |
| 北海道大学 | 1   | 3    | 0   | 4   |
| 九州大学  | 0   | 4    | 0   | 4   |
| 7大学合計 | 9   | 32   | 7   | 48  |
| 全採択件数 | 20  | 56   | 20  | 96  |
| 全申請件数 | 37  | 112  | 35  | 184 |

## 鷲田総長がAEARU（東アジア研究型大学協会）の理事に就任

昨年12月東北大学でAEARUの学長会議が開催されました。2010年1月からの会長（大学）には現副会長の香港科技大学が、後任副会長には清華大学（新竹）（台湾）が選出されました。また本学は理事大学に推薦されましたので、本年1月1日より鷲田総長が理事に就任しています。5月中旬にAEARU BOD Meeting（AEARU 理事会）が開催されることになっていますが、本学は理事大学としてこの会合のホスト役を務めることになっています。

## G30 プロモーション用DVDの制作

国際企画推進本部ではG30事業の一環としてDVD「Osaka University: Where Your Global Future Begins」(音声英語：中・韓・タイ字幕)を制作しました。このDVDは留学説明会やフェア等で、海外の留学希望者、とくに日本への留学に興味のある外国人大学生や高校生に大阪大学の魅力を伝え、関心を高める狙いをもっています。約10分間のビデオでは、大阪大学のすぐれた研究・教育環境、第一線の研究者による先端分野の教育、きめ細かな学生指導、留学生への支援、大阪という都市の魅力、未来への夢について、留学生自身と指導教員が熱く語ります。同時に制作中の英語コース・短期プログラム等紹介ビデオと合わせ完成は来月予定ですが、DVDの先行版が完成していますので、必要な方はお知らせ下さい。



創立 80 周年記念事業



# 原点へ 未来へ

大阪大学は 2011 年に創立 80 周年を迎えます



## 創立 80 周年記念事業

創立 80 周年記念事業委員会において検討された事項について、次のとおりお知らせします。

### 【平成 21 年 12 月 16 日開催】

創立 80 周年記念ロゴ・マーク及びバナーのデザインを決定。

バナーを学内各所に順次設置し、創立 80 周年事業の気運を盛り上げる。

各実行委員会から提案のあった記念事業の検討状況について報告。

大阪大学会館は、学内のエコ化のシンボリックな建物としてデザインしていく予定。

### 【平成 22 年 1 月 20 日開催】

創立 80 周年記念にかかる英語表記について検討し、決定。

- ・事業タイトル「原点へ・未来へ」

Reflecting on the origin, looking to the future

- ・大阪大学創立 80 周年記念

The 80th Anniversary of the Foundation of Osaka University

- ・大阪大学創立 80 周年記念事業

The 80th Anniversary Commemoration of the Foundation of Osaka University

創立 80 周年記念ロゴ・マークの使用等方法等について検討し、決定。

バナーの設置について報告。

記念出版・展示実行委員会及び学生イベント実行委員会から提案された記念事業について、各委員長から詳細説明。

## 募金活動

創立 80 周年記念事業募金は、昨年 5 月に募金活動を開始した大阪大学未来基金（大学）の一部としてすでに始まっています。この基金は大阪大学が主体となり長期的な展望をもって募るものですが、創立 80 周年記念事業募金も大学の重要な事業として活動するもので、未来基金に募金の窓口を一元化しています。大阪大学未来基金（大学）の募金活動は、基金室が中心となって対応しています。本募金に関しては、大阪大学の教職員、名誉教授、卒業生など大阪大学関係者を対象に活動を行ってききましたが、創立 80 周年記念事業を目的としたご寄付はまだまだ少なく、より多くの方々からのご支援をお願いしなければなりません。

創立 80 周年を機に、イ号館（登録有形文化財建造物）を再開発して「大阪大学会館」とする計画をしていますが、当該事業について関連事業も併せて募金をもって実施しようとしています。この募金活動は、創立 80 周年記念募金実行委員会が担当しています。大阪大学会館設立には多額の費用が必要なことから、

募金活動は法人（企業）を主たる対象として行うこととしています。募金に際しては、有力企業を中心に「大阪大学会館設立募金支援委員会」を組織していただき、本委員会のご協力を得てその活動を進めて行くこととしています。2 月以降、募金活動が始動しますが、皆様方にはご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、創立 80 周年記念事業募金など大阪大学の募金活動を下表のとおり整理していますのでご参考にしてください。

### 大阪大学の募金活動

| 募 金 の 名 称           |       |                     | 募金活動<br>の主体 | 募金活動<br>の対象                                  |
|---------------------|-------|---------------------|-------------|----------------------------------------------|
| 大阪大学未来基金<br>(大学)    | 寄附の目的 | 教育・研究・国際交流など        | 募金室         | 大学関係者<br>(個人)<br>・教職員<br>・卒業生<br>・名誉教授<br>など |
|                     |       | 創立80周年記念事業          |             |                                              |
|                     |       | 洪庵生誕200周年記念事業       |             |                                              |
|                     |       | 基礎工学部創立<br>50周年記念事業 |             |                                              |
| 大 阪 大 学 会 館 設 立 募 金 |       |                     | 募金実行<br>委員会 | 法人(企業)                                       |

## ロゴ・マークの使用法等

創立80周年記念事業委員会では、ロゴ・マークの使用方法等について、以下のとおり定めました。

本学の広報誌、配付資料、チラシ、ポスター、名刺等、広く活用いただき、本学の創立80周年をアピールいただきますようよろしくお願いします。

### ロゴ・マークの形態及び指定色

パターン A (～20mm まで)

20mm 以下で使用する場合、“th”を外したものをを使用すること

◆指定色



祝祭の赤  
C= 10%  
M=100%  
Y=100%  
K= 0%

パターン B (～20mm まで)



パターン C (～10mm まで)



### 使用範囲

- i 本学の旗等の正規装飾品
- ii 本学が発行する印刷物（ホームページを含む）
- iii 本学が作成する便箋、封筒等の文具等の類
- iv 本学の役員及び教職員が作成する発表資料等
- v 本学の役員及び職員の名刺
- vi その他適当と認めるもの

### 使用方法

本学の尊厳及び品位を損なわないよう配慮し、広くロゴ・マークを使用する。

ロゴ・マークを使用した場合は、その成果物（名刺を除く）を総務部総務課へ提出するものとする。

### 使用申請

- i 申請区分：
  - 教員は個人単位で申請可。
  - その他職員は、部又は課単位で申請可。
  - 及び 以外の者については、申請により許可する場合がある。
- ii 申請方法：申請者の所属・職名・氏名・電話番号・申請区分（ の場合は、部又は課単位を記載）・用途を記入のうえ、次のEメールアドレスに送信してください。  
E-mail: handai80th@star.jim.osaka-u.ac.jp
- iii データの取得：申請のあったEメールへの返信にて、ロゴ・マークのデータを添付うえ、送信します。（送信には数日を要する場合があります。）

## バナーの設置

黄金比率の「祝祭の旗」であるロゴ・マークを学内に「翻る」ことをイメージした「バナー(=垂れ幕)」に形を変え、吹田、豊中、箕面、中之島の各地区の建物内に設置しました。

設置期間は、創立80周年記念事業が終了する平成23年度末までの予定としています。

今後、設置場所を更に増やし、創立80周年の気運を盛り上げたいと考えています。

### 設置地区・建物等

#### 吹田地区

- ・本部事務機構共通棟(玄関ホール)
- ・ICホール(玄関ホール)
- ・コンベンションセンター(玄関ホール)

#### 豊中地区

- ・学生交流棟(玄関ホール)

#### 箕面地区

- ・箕面福利会館(玄関ホール)

#### 中之島地区

- ・中之島センター(1階ロビー)

### ■バナー



### ■本部事務機構共通棟



### ■コンベンションセンター



### 吹田キャンパス



### ■ICホール





豊中キャンパス



■ 学生交流棟

■ 箕面福利会館



箕面キャンパス



中之島センター



■ 1階ロビー



■ お問い合わせ先

大阪大学総務部総務課（創立 80 周年担当） E-mail: handai80th@star.jim.osaka-u.ac.jp

# 「平成21年度国際化拠点整備事業(グローバル30)」に採択

大阪大学国際企画推進本部  
本部長 辻 毅一郎

## ■ グローバル30とは

「国際化拠点整備事業(グローバル30、以下G30と略記)」は、大学の機能に応じた質の高い教育の提供と、海外の学生が我が国に留学しやすい環境を提供する取組のうち、英語による授業等の実施体制の構築や、留学生受け入れに関する体制の整備、戦略的な国際連携の推進等、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材を養成することを目的としています。平成20年に策定された「留学生30万人計画」の具体的な実現への方策の一部として、英語のみで受講・卒業できるコースの創設、国際公募による外国人教員の採用、受け入れ体制の整備等、特に大学のグローバル化に重点が置かれているところが特徴です。

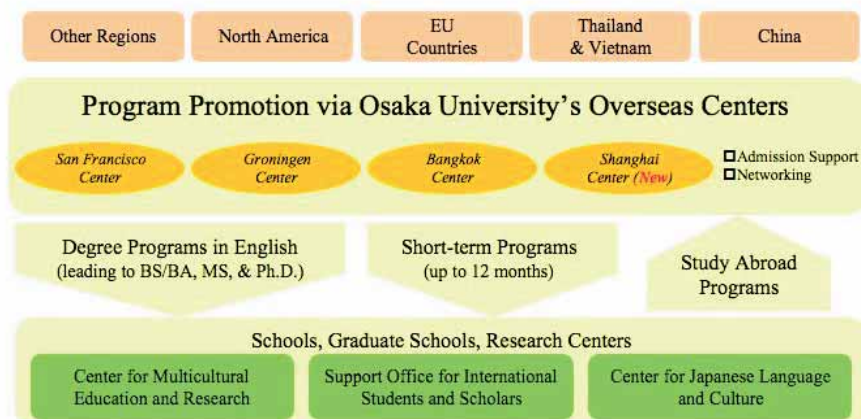
G30への採択は、大阪大学が我が国を代表する国際化拠点のひとつとして認知され、国から重点的な支援を受ける一方、大学として国際化への加速的な努力に取り組む姿勢を対外的に示したことになります。平成21年度は、全国から22大学の応募があり、国立大学7校(東北大学、東京大学、筑波大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学)、私立大学6校(早稲田大学、慶應大学、上智大学、立命館大学、明治大学、同志社大学)の計13校が採択となりました。国立15校のうち採択されたのは7校で、特に国立大学にとって厳しい審査であったことがわかります。



## ■ 本学の構想

本学は、学位取得が可能な英語コースとして、「化学・生物学複合メジャーコース」(理学部・工学部・基礎工学部共同)、「人間科学コース」(人間科学部)の学部コース及び「統合理学特別コース」、「国際物理特別コース」(理学研究科)の大学院コースを新設します。これらのコースは既存の英語コース(フロンティアバイオテクノロジー英語特別プログラム、船舶海洋工学英語特別コース、「Engineering Science 21st Century」プログラム、量子エンジニアリングデザイン研究特別プログラム)に加えて、本学の教育プログラムの幅を一段と広げるものとして期待されるものです。留学生数については、G30の定める目標年である平成32年までに、約2倍の3,000名とすることを目標値として掲げています。構想では、現在約200名弱の受け入れがある1年未満の短期留学生数を今後拡大し、平

## 大阪大学のアクションプラン



成 32 年にはおよそ 1,000 名規模まで拡大することを目指します。

また、日本語に習熟していない外国人研究者・留学生にも特に支障のない環境づくりにも取り組みたいと考えています。KOAN をはじめ様々な通知文書の英語化、英語を駆使できるスタッフの育成、宿舎斡旋システムの改良、研究者・留学生受け入れに伴う事務処理効率の抜本的向上にも注力する予定です。このように、G30 は全学的な国際化の推進に寄与するものです。

### ■ G30 の本学における現状

今後多くの外国人研究者・留学生を大学に迎えるにあたり、本学のサポートオフィスが拡充・人員増加され、留学生センター IC ホール 2 階ロビーへと移転されました。これにより、外国人学生・研究者へより良い実効的なサービスを提供すべく、一層努力したいと考えています。



ベトナムでのプロモーション活動

また、国際企画推進本部では、G30 の資金で外国からの学生受け入れ促進を目的としたキャンペーンのために、世界各地で行われる留学フェアへの参加、模擬講義の実施など、効果的なキャンペーンを計画しています。そのために複数言語で大学の紹介冊子やポスター、プロモーション・ビデオ等を作成し、大阪大学の魅力を海外の学生や大学関係者に広く伝える努力をしています。

### ■ 今後の展望

G30 は、本学における留学生受け入れをより積極的なリクルートへと転換する試みともいえます。少子化と人口減で国内高等教育の縮小が予想される日本において世界のトップレベルの研究大学院大学であり続けるためには、全学的な国際化戦略により、海外の優秀な人材に開かれた大学となること、人の交流（派遣と受入）規模を拡大することが必要と考えられます。そのためには、グローバルな立場から世界の他の大学にない大阪大学の魅力を新たに発見し、伸ばすこと、それを世界的に伝えることも重要となります。

学部レベルの英語コース開設は本学初めての試みでもあり、英語での授業科目の提供など、全学的に多くの先生方のご支援・ご協力が欠かせません。また、G30 の目指す学習・研究環境の国際化には、一部の教職員にとどまらない全学的な国際化推進と支援体制の構築が必要になります。近年の欧州における大規模な学生・研究者流動とその域内外への拡大、アジアの大学の存在感の増大と留学生受入と派遣の重視、アメリカの大学の圧倒的な人材吸引力、グローバル化のなかで世界中の学生にとって将来の選択肢がいかに拡大したか等を考えるとき、世界へ開かれた大学となるための努力は大学の将来のために不可欠と考えられます。G30 の採択を契機に本学の国際化を一気に推進するため、皆様のご協力を心からお願いする次第です。

## 第25回 湯川記念講演会

1949年にノーベル賞を授与された湯川博士は理学部講師として在籍され、大阪大学での研究論文がノーベル賞の対象となりました。その偉業を記念して創設された総合学術博物館湯川記念室では、専門分野である物理学、あるいは関連する学問分野の成果を広く一般の方々に知っていただくために湯川記念講演会を毎年開催しています。本年度も日本物理学会大阪支部との共催、日本物理教育学会近畿支部の後援により、10月3日(土)大阪大学中之島センターにおいて開催され、幅広い年齢層の約150人が参加しました。

『失われた反物質をめぐって』と題し、神奈川大学、三田一郎教授が、なぜ宇宙は存在するのに反宇宙は存在しない



三田神奈川大学教授による講演



廣野理学研究科准教授による講演

いのか、ノーベル物理学賞に輝いた小林・益川理論がいかに反物質の性質を説明するか、そしてその理論の実験的検証が日本とアメリカでどのようになされたか、などについてわかりやすく解説されました。

次に、本学理科学研究科、廣野哲朗准教授が『断層掘削研究から地震の本質に迫る』と題し、地震とはどういうものか、いかに発生し大きく伝わっていくか、断層掘削などで得られたデータから、近い将来起こる地震がどのように予知されるかを興味深く解説されました。

どちらの講演も、聴衆からは熱心な質問が続出し、知的好奇心を呼び起こす有意義なものとなりました。

(湯川記念室)

## 平成21年度 大阪大学安全衛生講演会の開催

10月21日(火)医学部銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて、平成21年度大阪大学安全衛生講演会を開催しました。この講演会は、全国労働衛生週間及び大阪大学安全週間(いずれも10月1日～10月7日)にあわせて、教職員、学生の安全衛生意識向上を図ることを目的に毎年開催しているものです。

今年度は、医学部附属病院感染制御部長で大学の流行性疾患対策会議委員でもある朝野和典教授を講師に迎え、「大学、社会における新型インフルエンザ対策」と題して、今回の新型インフルエンザに関する正しい情報、学校生活や社会生活における対策、罹患時の対処方法等について、ご説明いただきました。講演では、近い将来必ず流行が予想される高病原性の新型インフルエンザ(鳥インフルエンザA/H5N1)に対する備えについても最新の情報を提供いただき、参加者は熱心に耳を傾けていました。当日は、約90名の参加がありました。

(安全衛生管理部)



講師の朝野教授

## 平成21年度 部局長等との合同巡視の実施

10月19日(月)～10月23日(金)にかけて、部局長、事業場安全衛生委員会委員、部局安全衛生委員会委員、担当事務を交えた合同巡視を実施しました。

合同巡視は、安全衛生管理の重要性について理解を深めるとともに、当該部局における危険箇所等の改善の推進に役立てることを目的に毎年1回実施しています。参加者からは、「実際に現場を見て回ることによって問題点に理解が深まり安全意識が高まった。」「合同巡視は安全意識の向上に役立つため、もっと多くの学生、教職員に参加してもらおうがよい。」等の意見が寄せられました。

(安全衛生管理部)



医学部附属病院での合同巡視の様子

## 日本とオランダ通商400周年記念

日本とオランダの通商交易が開始されてから400年を記念し、ピーター・バルケネンデ オランダ王国首相が、昨年10月23日から25日までの3日間の日程で来日されました。10月25日には、フィリップ・ヘーア 駐日オランダ大使主催による午餐会が、京都ホテルオークラにて開催され、大使館、領事館、企業、大学、政治家などオランダにゆかりのある関係者が多数招かれました。本学からは、辻毅一郎理事・副学長と審良静男免疫学フロンティア研究センター長の2名が出席をしました。



中央 午餐会で挨拶をするバルケネンデ オランダ王国首相

本学とオランダの関係は、1838年(天保9)年に緒方洪庵が創設した適塾に始まっています。適塾で、緒方洪庵は塾生に蘭学・医学を教えました。また、適塾の学問的気風は、大阪大学の源流となり、1869年(明治2)年に開設した病院には、オランダ人教師のボードウィンを迎えています。さらに、2005(平成17年)には、ヨーロッパでの教育・研究の拠点をオランダ・グローニンゲンに設置したことで、オランダを含むさまざまな大学との共同研究、交換留学や夏期短期研修の支援などを行い、交流をさかに行っています。

今回の来日には、バルケネンデ首相の他に、ロナルド・プラステルク教育・文化・科学大臣と科学イノベーションプラットフォームのメンバーが同行しましたが、科学イノベーションプラットフォームとは、オランダ政府により2003年から設置された諮問機関で、高等教育、研究開発、最先端事業の分野で、オランダが世界のトップ5になることを目標に掲げています。座長はバルケネンデ首相で、副座長はロナルド・プラステルク教育・文化・科学大臣が務めていますが、その他はオランダの政治、産業、教育などを代表するメンバーで構成されており、午餐会では科学技術に関する有意義な情報が交換されました。

(国際部国際交流課)

## 平成21年度 基礎工学研究科英語特別コース入学式挙行

英語による科目履修及び研究指導により修士号及び博士号を取得できる基礎工学研究科英語特別コース博士前期課程及び博士後期課程の入学式が、10月28日(水)に基礎工学研究科において挙行されました。

式では、関係者39名が出席し、佐藤宏介教育担当副研究科長の司会のもと、戸部義人研究科長から式辞があり、平成21年4月及び10月に入学した9カ国24名のうち代表者4名による記念スピーチが行われました。最後に、出席した基礎工学研究科執行部、各指導教員、英語カリキュラム推進室メンバーとともに記念写真を撮影し、終了しました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



## 平成21年度 大阪大学特志解剖体追悼法会実施

去る11月2日(月)午後1時から四天王寺本坊(大阪市天王寺区)において、平成21年度大阪大学特志解剖体追悼法会が執り行われました。

この法会は、系統解剖及び病理解剖のために大阪大学に御献体いただいた方々を追悼するもので、毎年、四天王寺で実施しているものです。

当日は曇り空の中、過去1年間に献体された方々の御遺族をはじめ医学部及び歯学部解剖学関係各教員並びに本年度解剖実習をした両学部の学生等、関係者約五百名の参加者がありました。

法会では、平野俊夫医学部長、脇坂聡歯学部副学部長及び両学部の学生代表が慰霊の詞を捧げた後、僧侶の読経の



慰霊の詞を捧げる平野医学部長



納骨法要にて御遺族に挨拶する島田教授

中、両学部教員代表、御遺族代表、大阪大学白菊会会長及び両学部学生代表の焼香に続いて参列者の焼香が行われました。次に、神経細胞生物学講座の島田昌一教授から参列者に対して挨拶があり、厳肅な雰囲気の中に午後2時閉会となりました。

また、法会終了後、大阪市北区長柄の大学墓地において、昨年度の解剖実習のために献体された方々のうち、大学墓地に埋葬を希望されていた方々の納骨法要が営まれ、御遺族及び大学関係者の見守る中で、17柱の御遺骨が納骨され、午後3時半頃滞りなく予定の行事が終了しました。

ここに改めて、御遺族の方々に感謝を申し上げますとともに故人の御冥福を心からお祈りいたします。

(医学系研究科・医学部、歯学系研究科・歯学部)

## 第4回 アトミックテクノロジー国際シンポジウム開催

工学研究科附属原子分子イオン制御理工学センター主催の第4回アトミックテクノロジー国際シンポジウム：The 4th International Symposium on Atomic Technology (ISAT-4) が、11月18日(水)・19日(木)の2日にわたってシーサイドホテル舞子ピラ神戸にて開催されました。

原子分子イオン制御理工学センターは材料、化学、機械、電子、プラズマの各分野の学問を融合させた研究施設で、筑波大学学際物質科学研究センターおよび東京理科大学ポリスケールテクノロジーセンターと連携し、ポストナノテクノロジーを推進しています。ISAT-4はこの活動の一環として、昨年8月に東京理科大学長万部キャンパスで開催した三大学連携学生研究会に引き続き開催されたものです。100名を超える出席者が2日間じっくりと議論する形で行われたこのシンポジウムは、物理、化学、生物の3系統のセッションから構成され、セッション毎に2名の海外招待講演者および1、2名の国内の招待講演者による研究発表と、上記の連携三大学からの数名による口頭発表が行われました。2日目には若手研究者と学生を中心とする70件程度のポスター発表が行われ、活発な議論が時間いっぱいまで繰



り広げられました。

従来は交流が少なかった分野の研究者が一同に会する本シンポジウムの役割は大きく、さっそく共同研究に関する話し合いが複数立ち上がるなど、予想以上の効果に主催者として喜びを感じているところです。なお、本シンポジウムの研究成果の一部は、Journal of Physics: Conference Series にて公表する予定となっております。

(工学研究科・工学部)

## スタンフォード大学フォトニクスセンター長のトーマス・パール教授と 米国光学会最高経営責任者のエリザベス・ローガン氏が驚田総長を表敬訪問

11月26日(木)、米国光学会会長で、スタンフォード大学フォトニクスセンター長のトーマス・パール教授と米国光学会最高経営責任者のエリザベス・ローガン氏が、驚田清一総長を表敬訪問しました。懇談には、辻 毅一郎副学長・理事、河田フォトニクス先端融合センター長、同センターのプログラムマネージャーである岩崎教授が同席し、始終、和やかな雰囲気の中で、本学の科学技術について意見交換を行いました。懇談後、パール教授は、銀杏会館で開催されました第二回フォトニクス・デイで講演を行いました。

(国際部国際交流課)



左からパール教授夫人、ローガン米国光学会最高経営責任者、驚田総長、パール教授

## 蛋白質研究所創設50周年記念行事

蛋白質研究所は、戦後の世界的な蛋白質研究の動勢に呼応して、昭和33年（1958年）に大阪大学附置の共同利用研究所として設置され、平成20年（2008年）4月をもって50周年を迎えました。同研究所では、平成20年度の本館耐震改修の完成を待って、平成21年（2009年）11月13日（金）・14日（土）に記念行事を挙行了しました。1日目は、本学コンベンションセンターMOホールにおいて記念式典と講演会を、千里阪急ホテル仙寿の間において記念祝賀会を開催しました。記念式典では相本三郎所長の式辞、鷲田清一総長の挨拶に続き、磯田文雄文部科学省研究振興局長（代読：藤田常学術機関課課長補佐）、郷通子情報・システム研究機構理事から祝辞が述べられました。式典後の記念講演会では、鷲田総長の「いのちはだれのもの？」と題する講演と、井上正順ローバート・ウッド・ジョンソン医科大学教授の「蛋白合成バイオリクター・赤堀先生と蛋白質研究所」と題する講演を、満席の出席者一同が感銘深く



相本所長の式辞



井上ローバート・ウッド・ジョンソン医科大学教授の記念講演



高杉理事・副学長の挨拶



先端の蛋白質科学研究の国際シンポジウム

聴き入りました。

その後、会場を移して記念祝賀会を催し、相本所長の挨拶の後、高杉英一理事・副学長から蛋白質研究の発展を本研究所が今後も先導するよう激励の言葉を頂きました。蛋白質研究所同窓会の初代会長の市原明徳島大学名誉教授と現会長の泉美治本学名誉教授の祝辞の後、中村宏樹自然科学研究機構分子科学研究所長の発声による乾杯で盛宴が始まりました。蛋白質研究所の国際ネットワークの北京大学物理化学研究所、台湾放射光研究センター、ソウル大学薬学部、インド化学生物研究所からの来訪者の方々の話も頂戴し、300名近くの出席者は旧交を温め歓談しました。2日目は、千里阪急ホテル仙寿の間において、先端の蛋白質科学研究の国際シンポジウムを開催しました。このシンポジウムには、世界で活躍中の第一級の科学者を招へいし、我が国の研究者とともに蛋白質科学の現状等について最先端のレベルで討議を行いました。今回の催しは、多くの企業や個人のサポートを受けて、本研究所創設50周年記念事業会が実施したものです。

（蛋白質研究所）

## 平成21年度 名誉教授会開催

毎年恒例の名誉教授会が、11月27日(金)午後4時30分からリーガロイヤルホテル・ロイヤルホールにおいて、名誉教授71名と名誉教授会から招待された総長、理事、監事及び部局長等28名の出席のもと開催されました。



受章者を代表して挨拶を行う池田信行名誉教授（理学部）



本学の近況を報告する鷲田清一総長



名誉教授会世話人と歴代総長による万歳の三唱  
(写真左から、宮原秀夫前総長、鷲田清一総長、  
芝哲夫名誉教授(理)、鈴木 胖名誉教授(工)、  
金森順次郎元総長及び熊谷信昭元総長)

世話人の鈴木 胖名誉教授（工学部）の司会により、ご逝去された先生方への黙祷で始まり、秋の叙勲受章者の紹介と池田信行名誉教授（理学部、瑞宝中綬章）からの受章者代表挨拶が行われ、続いて、中嶋英雄教授（産業科学研究所）の講演、鷲田清一総長からの、本学の近況報告が行われました。

その後開催された懇親会では、鷲田総長による出席部局長等の紹介の後、西山敏之名誉教授（教養部）の発声による乾杯で開宴し、お互いの近況報告など旧交を温めながら、終始和やかな雰囲気の中で懇談が行われました。

また、鈴木 胖名誉教授から新しい世話人として、芝哲夫名誉教授（理学部）の就任が報告され、最後に名誉教授会世話人（鈴木 胖名誉教授及び芝哲夫名誉教授）と歴代総長（熊谷信昭元総長、金森順次郎元総長、宮原秀夫前総長及び鷲田清一総長）を中心に、万歳を三唱し盛会のうちに閉会しました。

（総務部総務課）

## 最先端の物理を高校生に

Saturday Afternoon Physics 2009

高校生を対象に、第一線の研究者が最先端の物理を分かりやすく講義するとともに、実験やゲームも取り入れ、物理や科学に対する興味を引き出そうとするプロジェクト、「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2009」が、総合学術博物館湯川記念室の主催、本学理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、大学教育実践センター、核物理研究センター、レーザーエネルギー学研究センターの共催で、10月24日(土)から11月28日(土)までの6週にわたり、豊中キャンパス理学部大講義室で開催されました。



毎土曜日午後3時から6時までの授業は、(1)基幹講義：自然界の様々な世界を訪ねる(2)コーヒーブレイク：実験デモ、実演、展示、交流、Q & A(3)実践講義：生きる物理、応用される物理、ゲーム、の3部で構成され、自然の謎を解き明かす最先端の物理を駆使して、宇宙から極微の世界を探索するとともに、我々の社会にこうした知識と技術がいかに生かされ実現されているかなど、未来への展望を含めてわかりやすく解説されました。

毎回、平均140人が参加し、講義終了後には内外から集まった講師たちに活発な質問を行うなど、「知りたい、学びたい」と思って自主的に参加した高校生の好奇心を満たすものとなりました。

また、工学研究科、レーザーエネルギー学研究センター、核物理研究センターにおける最新研究設備の見学も行われるなど、参加者にも好評のうちに全プログラムが終了し、最終日には、小泉潤二理事・副学長から修了証書が授与されました。

詳細はホームページ <http://www.yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/SAP/> に掲載されています。

(湯川記念室)

## 文学研究科

### 平成21年度研究教育フォーラム(教員研究会)開催

文学研究科では、毎年11月に、教員相互による研究交流の発表会を行っています。若手・中堅教員の中で、エポックメイキングな研究状況に立つ者を1名、その年度で定年をお迎えになる教員から1名、を原則とし、それぞれ最先端の研究を発表し、議論する場とするものです。現在は研究教育フォーラム(教員研究会)と名付け、教員のプレゼンテーションをめぐる、FDとして位置づけています。発表会終了後は、名誉教授との懇親会も設けています。本年は、中村元保名誉教授(ドイツ文学)、若山映子名誉教授(西洋美術史)、柏木隆雄名誉教授(フランス文学)の顔も見えました。

通算40回目となる今年は、11月19日15時30分より、発表1)荒川正晴教授「唐代の新興庶民と仏教信仰—トルファンに生きたある高利貸しの事例から—」発表2)天野文雄教授「寛正五年糺河原勘進猿楽の舞台の橋掛りは本当に真後ろに付いていたのか—能舞台変遷史再考—」というタイムテーブルで行われました。

荒川教授の発表は、トルファンでの最新の出土資料の分析を踏まえ、天野教授の発表は、15世紀半ばのもっとも



古い能舞台の存在とその復元図をめぐり、いずれも従来の定説を覆す劃期的な論説でした。50数名以上の参加者が、時間を延長する白熱した議論を展開したため、終了後駆け足で、18時からの懇親会(於待兼山会館)に向かった次第です。懇親会にも名誉教授を含め、30名ほどの参加者があり、旧交を暖め、時の往還に身をゆだねた一日でした。

(文学研究科・文学部)

## サムライセミナー2009開催

大学教育実践センター・運動健康支援部門では、平成21年12月5日(土) 豊中地区・大学教育実践センター体育館におきまして、「サムライセミナー2009」(指導：坂東隆男・大学教育実践センター准教授)を開催しました。

本教室は、平成15年度から「剣道教室」として開催されてきた講習会ですが、その中でも特に人気が高かった、



模擬日本刀を使った居合(いあい)道の動きに内容を絞り、実施したものです。今回は、22名の教職員の方々が参加されました。

内容は、全日本剣道連盟居合の動きを題材とし、居合道の特徴である、不意の攻撃に対処する技術を体験していただくことにより、注意力、観察力、判断力、集中力の育成と、落ち着いた呼吸、安定した姿勢を実践していただきました。

当日はあいにく雨の天候の上、若干気温も低めでしたが、会場は熱心な参加者の集中した空気で満ちていました。参加者からは、「静かな雰囲気の中で背筋が伸びるような緊張感を味わった。」「ゆっくりとした動きに能や狂言のような美しさを感じた。」などの感想がよせられていました。

大学教育実践センターでは、普段、運動をする時間がなかなかとれない教職員の方々を対象に、今後もこのような企画を計画する予定です。

(大学教育実践センター)

## 大阪大学 産業科学研究所創立70周年記念講演会(第65回学術講演会)を開催

産業科学研究所では、平成21年12月3日(木)に、第65回学術講演会と合同し、産業科学研究所創立70周年記念講演会が開催されました(於：大阪大学 銀杏会館)。

午前中は各研究室、附属施設、センター、共通施設などによる合計43件のポスターセッションが実施され、活発な意見交換が行われました。午後からの記念講演会は、今年度文部科学省より認定を受けた「ネットワーク型共同利用・共同研究拠点(物質・デバイス領域拳宇津尾研究拠点)」の発足も記念して、「ナノとマクロをつなぐ学際融合の展開」をメインテーマに企画されました。山口明人所長の開会の辞に引き続き、来賓の文部科学省研究振興局学術機関課研究調整官小山晴己氏から祝辞が述べられた後、驚田清一大阪大学総長による「制作の論理 - 技術と芸術をめぐって」と題する記念講演が行われました。



と題する記念講演が行われました。

学術講演においては、ネットワーク型共同利用・共同研究拠点を構成する5研究所の先生方4名による招待講演(東北大多元研・齋藤文良所長「ナノから

マクロな物質創製開発研究と共同研究への期待」、北大電子研・三澤弘明所長「ナノテクの深化により大きく羽ばたく光科学技術」、東工大資源研・辰巳敬教授「新原理による多孔体の形成とその応用」、九大先端研・高原 淳教授「ソフトインターフェースの精密構造制御と表面機能物性」と、本研究所教授4名による一般講演が行われました。研究所内外の教職員、学生及び学外からの研究者等参加者は延べ150名以上にのぼり、創立70周年記念講演会として、また、産研の新たな門出に向けて相応しい充実した講演会となりました。



講演会終了後には、記念祝賀会が開催され、文部科学省小山研究調整官や東北大多元研齋藤所長、大阪大学理事・副学長の月岡英人氏などからご祝辞を頂いたほか、産研を出られた多数の名誉教授から懐かしい思い出話などをお話いただき、終始和やかな祝賀会となりました。

(産業科学研究所)

## 文学研究科が入試をテーマにFDシンポジウムを開催

文学研究科は、12月3日(木)の午後、附属図書館6F図書館ホールにおいて、入試をテーマにFDシンポジウムを開催しました。大学入試センター試験は平成24年度から一部の科目で科目選択が弾力化します。大阪大学の各部局は、二次試験の出題科目やその選択方法も含め入試戦略を再検討する時期を迎えています。また、最近の大学生の基



礎学力の低下は深刻なものがあります。こうした状況に鑑み、文学研究科は、いかなる学生をいかに育てるかというアドミッション＝ポリシーの再検討を図り、そのアドミッション＝ポリシーにマッチした入試戦略に踏み出すために、従来から行ってきたFD講演会の規模を拡大し、現役大学生についての文学研究科教員による現状報告や分析と、駿台予備学校情報センター長や高校現場の教諭による受験生についての動向分析を交えた、二部構成のFDシンポジウム「入試制度の現状と将来への展望」を開催しました。議論が拡散しないよう問題を「地理歴史」に限定し、第一部では文学研究科教員による「高校世界史必修の実態」「中学・高校と大学入試における地理」「共通教育等における歴史科目担当教員の取り組み」等の報告、第二部では予備学校情報センター長や高校現場の教諭による「大阪大学の入試の現状」と「制度改革の方向性と受験生の動向」についての分析が行われ、その後、フロアとともに活発な議論が行われました。

(文学研究科・文学部)

## 後期1年生クラス代表懇談会

12月8日(火)の昼休み(12時10分 - 12時50分)を利用して、1年生の後期クラス代表懇談会が実践センター、ステューデント・コモンズ2階セミナー室1で開催されました。この懇談会は、センター専任教員と学生のクラス代表で構成し、授業・カリキュラムや学習環境など大学教育実践センターが関係する問題全般について、センター専任教員と学生で話し合うために開催されていますが、今回は特にステューデント・コモンズに関する学生の意見・感想の収集を行いました。1年生のクラス代表は、92名中55名が参加し、専任教員は18名、事務職員は6名が参加しました。

工藤大学教育実践センター長からは、センターでは教員と学生の対話を重視しており、ステューデント・コモンズに関していろいろな意見や要望を言ってもらって、学生が大いにこの新しい施設を利用してもらいたい、との挨拶が



ありました。山成研究部長からは、ステューデント・コモンズの利用心得についての説明がありました。学生からは、「ステューデント・コモンズで学部学科の横断的交流をはかる企画をやってほしい」という要望が出されました。「1階のスクリーンについてももっと活用して欲しい」という意見が出ました。また、KOANに関しては、「最近の携帯電話ではPDFやExcelが読めるので、それにも対応して欲しい」という要望が出されました。さらに、語学の履修に関して、「特別外国語で、ドイツ語とフランス語が履修できるようにしてほしい」という要望も出ました。

事前アンケートで出た要望、意見については、その場で担当者が回答できる範囲内で回答しましたが、他部局との調整が必要な内容もありました。要望・意見とそれに対する回答は、センターのウェブ・ページに掲載する予定です。

(大学教育実践センター)

## 平成21年度 リーダーズ・アセンブリー実施

本年度のリーダーズ・アセンブリーを12月5日(土)に学生115名及び教職員10名の参加のもとに豊中キャンパスのイ講堂において実施しました。

このアセンブリーは、体育系学内各クラブのリーダー、若しくは次期リーダーとなる者を集めて研修を行い、講演や講習を通してリーダーの意義と素養を深め、また各クラブが抱える諸問題について協議し、それに対する解決策や改善策を話し合うことを目的とする。

また、体育会各クラブの士気を高めると同時に、各クラブ間のお互いの理解・親睦を深めることも目的とする。例年は1泊2日の日程で実施していましたが、今年度は1日で実施しました。

まず、大垣学生生活委員会委員長の挨拶に始まり、東課外活動小委員会委員長の講話、続いて本学安全衛生管理部の山本教授による「課外活動におけるリスク管理」と題して課外活動の際に取り巻くリスクについての講話を行っていただきました。

さらに、柔道整復師島津氏から「トレーニングプラン作成のポイントについて」を演題に、競技力向上に最短距離で結びつく練習プランを立てるために押さえておくべきポイントの解説や、(株)リンクアンドモチベーションの此



下氏による「モチベーションとリーダーシップ」と題して、リーダーとして魅力的なプレゼンテーションを如何に行うかの解説がなされました。

分科会では参加者を9つのグループに分け、共通議題として「インフルエンザ罹患対策」と「各課外活動団体における諸問題と対策について」意見交換が行われました。また、班別議題として事前アンケート等をもとに設定された議題を取り上げ、活発な意見交換も行われました。

夕方に行われた懇親会では、驚田清一総長(体育会会長)から、全国七大学総合体育大会(七大戦)3位、本大学が当番校で実施された阪名戦では総合優勝を勝ち取るなどのめざましい成果が挙げられているが、今後も技を磨き今年以上の成績を上げ再来年の大阪大学創立80周年記念に相応しい成績を上げていきたいという力強い激励の言葉をいただきました。

最後に、本年度体育会六賞受賞クラブの発表と決意表明に加え、全てのクラブの代表者が壇上で今後の活動についての決意表明を行い、平成21年度のリーダーズ・アセンブリーを終了しました。

(学生部学生支援課)

## 大阪大学特別企画講演会を開催

大阪大学特別企画講演会「最近の学術研究を巡る状況」が、12月8日(火)、医学部銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて開催されました。

講演会は、驚田清一総長の挨拶で始まり、西尾章治郎理事・副学長の司会のもと、講演者に、日本学術振興会審議役の宮脇和男氏を招いて行われ、学内関係者約150名が参加しました。

宮脇氏より、まず、我が国の科学技術政策等の現状について解説があり、日本学術振興会の事業概要、科学研究費予算額や主な競争的資金の推移、中国/韓国のほか各国の科学技術政策について講演の後、我が国の科学研究費の審

査方法やその年度繰越活用促進等について講演されました。

質疑応答では、大学における研究推進の在り方など昨今の事業仕分けに伴う関心の高さから活発な意見交換がなされ、盛会のうちに終了しました。



日本学術振興会審議役 宮脇和男氏

(研究推進部研究推進課)

## 近畿地区国立大学長懇談会開催

近畿地区国立大学長懇談会が12月9日(水)に本学を当番として中之島センターにおいて開催されました。この懇談会は、毎年12月の世界人権デー(12月10日)に先立つ人権週間(12月4日から10日)の期間中もしくはその前後に、学長自らが人権問題について理解と認識を深めるとともに各大学との情報交換をすることによって教職員や学生への人権啓発や人権教育を積極的かつ効果的に推進することを目的として開催されています。

懇談に先立ち、弁護士である本学大学院高等司法研究科の南川 博茂特任教授に「アカハラ、パワハラ?! - 教育



南川特任教授による講演

も研究も人と人 - 裁判例から学べること～学び得ること、学ぶべきこと～」と題してご講演いただきました。

講演会では、実際に起こったアカハラ・パワハラの裁判例を紹介していただき、その後活発な質疑応答が行われました。

また、懇談会では各大学が抱える問題やその取り組みについて報告があり、積極的な意見交換・情報交換が行われ、人権問題に対する理解と認識を共有し、予定した日程を終了しました。

(総務部総務課)

## 平成21年度 大阪大学会計事務研修実施

11月27日(金)、12月7日(月)、10日(木)の3日間にわたり、コンベンションセンターにおいて、「大阪大学会計事務研修」を開催しました。本研修は、会計関係事務に従事している職員に限定せず、本学職員としての経験が概ね5年以下の者を対象として、国立大学法人の会計経理の基本的な制度や内規等について正しく理解し、会計関係の基本的な知識を習得することにより、能率的で的確な業務遂行能力を身につけることを目的として実施されたものです。

平川財務課長による開講式での挨拶の後、猿渡財務部長より国立大学法人職員として認識すべき「国立大学法人制度」について講義が行われ、国立大学法人制度というもの



の立ち位置を理解した上で、適正かつ効率的に業務を実施することが必要であるとの説明がありました。その後、学内の研修講師により、大阪大学の予算、会計制度、収入、資産



管理等について講義や演習が行われました。収入に関する研修では「大阪大学の収入を増やすには?」というテーマで、資産管理の研修では、「固定資産亡失(損傷)報告の手続」についての演習が行われ、活発な意見交換が行われました。本年は82名が受講し、研修後に実施したアンケートでは、講師の方の熱意が伝わってきて、自分も阪大の将来について考えながら、日々の業務に取り組んでいきたい、との意見も出されています。今後もより有益な研修プログラムの実施に向け参加者から寄せられた意見・要望をもとに、検討を進めることとしています。

(財務部財務課)

## 文学部・文学研究科 親睦パーティー—留学生とともに—

文学部・文学研究科では、第29回目となるパーティーを12月3日(木)に福利厚生棟4階食堂で開催しました。文学部・文学研究科の学生と教職員、本研究科を訪問中の外国人研究員、他学部・研究科の学生など114名の参加者が集いました。

パーティーは留学生の司会のもと、江川温研究科長の挨拶について、科内国際連携室長の和田章男教授による乾



学生による舞の披露

杯でスタート。日頃接することの少ない他の研究室の学生、教職員と親睦を図る良い機会となりました。

今回は学生によるアトラクションとして、ギターの弾き語りと能の舞が披露されました。また、デザートをはさんでビンゴゲームも行われ、用意された景品がすべて渡されたところで、2時間ほどのパーティーを盛会のうちに終了しました。



ビンゴゲームの様子

(文学研究科・文学部)

## 理学研究科 外国人留学生懇親パーティー開催

平成21年度理学研究科外国人留学生懇親パーティーが、12月4日(金)、豊中キャンパスの福利センターにおいて開催されました。

パーティーには、国際交流活動の盛んな豊中ロータリークラブの代表をお迎えし、外国人留学生、外国人研究者、指導教員、チューター学生及び国際交流に理解のある教職員・学生等100名が参加しました。WILSON AGERICO  
タン デイニョ  
TAN DINO 留学生担当教員の司会のもと、渡會 仁 副研究科長の開会挨拶、小寺 潤一 豊中ロータリークラブ



豊中ロータリークラブの方と歓談する留学生



竹を使っのゲーム

会長の挨拶に続き、野末 泰夫 指導教員代表のご発声による乾杯で始められました。本年度は留学生のギター演奏等の後、留学生による母国のゲームに教職員も参加し、大いに盛り上がり、懇親を深めることができました。

また、留学生にとっては、日頃接することの少ない方々と懇談する良い機会となりました。

最後に、久野 良孝 国際交流委員会委員の閉会の挨拶があり、名残を惜しみつつ散会となりました。

(理学研究科・理学部)

## 基礎工学研究科 留学生年末交流パーティー開催

平成 21 年度基礎工学研究科留学生年末交流パーティーが、12 月 10 日(木)午後 6 時から福利センター 4 階食堂(豊中地区)において、約 200 名の参加者のもと、盛大に開催されました。

パーティーは、熊谷留学生担当教員の司会のもと、戸部義人研究科長、豊中ロータリークラブ会長小寺潤一様、TIFA 代表葛西芙紗様、アミーゴ代表柳朝子様、尾方留学生相談室長から挨拶があり、岡村康行評議員の発声による乾杯で華やかに始まりました。本年も留学生相談室の各種事業に貢献した留学生及び日本人学生に対して、感謝状の贈呈が行われました。



戸部研究科長によるあいさつ



また、アトラクションとして、留学生が日本、海外の歌をギターをバックに熱唱し、楽しい雰囲気の中お互いに懇親を深め、盛況のうちにお開きとなりました。

なお、本パーティーは、日頃お世話になっている地域ボランティア団体・個人、家主、ホストファミリーに感謝すると共に、留学生、日本人学生、チューター学生及び教職員の親睦を深め、相互交流の輪を広げることを目的に、毎年基礎工学部留学生相談室を中心に催されているものです。  
(参考：基礎工学部留学生相談室 HP <http://www.kisr.es.osaka-u.ac.jp/>)

(基礎工学研究科・基礎工学部)

## 薬学部でOSCE本試験を実施

薬学部では、12 月 12 日(土)に OSCE (オスキー) 本試験を実施しました。

OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験) は、薬学部 6 年制(本学部では薬学科)の学生に対して行われる全国統一の薬学共用試験の一部で、病院や薬局での実務実習に必要な知識、技能や態度などを



評価するものです。この試験と後述する CBT の両方に合格した学生でなければ、医療現場での長期実務実習に臨むことができません。本格実施に向けて、全国の薬学部でトライアルが行われてきましたが、今年度より本試験として実施することになりました。

当日は、6 課題のステーション(試験実施場所)に分かれて、薬学科 4 年生 23 名を受験者として実施しました。受験者は緊張した表情で試験に臨みましたが、患者・来局者対応、薬剤の調製(1)、同(2)、調剤鑑査、無菌操作の実践、情報の提供の各ステーションとも、大きなトラブルもなく無事終了しました。

今回実施した OSCE と、1 月に実施予定の CBT (Computer-based Testing) の得点を合わせて薬学共用試験の成績として合否判定が行われます。

なお、運営には本学部教員全員が当たり、模擬患者として NPO 法人 SCCRE の方に参加いただくとともに、評価者として近隣の大学薬学部、大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会等の方に協力していただきました。

(薬学研究科・薬学部)

## 薬学研究科 消防訓練実施

薬学研究科では秋季全国火災予防運動の一環として、12月15日(火)13時より学生・教職員122名の参加を得て消防訓練を実施しました。

小林研究科長から日頃より防火に努める心構えを持つこと及び初期消火の重要性について講話があり、その後、消火器の使用方法について消火器販売業者より説明がありました。続いて、業者の指導のもと消火器を用いた模擬火災消火がおこなわれ、10名の学生が積極的に参加しました。この訓練に使用された消火器は、薬学研究科に実際に設置



されているものと同じABC粉末消火器であり、参加者には実際の火災を想定した臨場感のある訓練となりました。終わりに藤岡教育研究安全管理委員会委員長から地震などの災害の際にも火事が起こりうるということ、またこの訓練を活かし、実際の火事に直面したときには冷静に対応するようお話を頂きました。

恒例の消防訓練でしたが、初めて参加する学生・教職員も多く、参加者各自が初期消火の必要を認識するとともに防火への意識の向上が図れました。



(薬学研究科・薬学部)

## セクシュアル・ハラスメント防止等に関する研修実施

12月16日(水)、セクシュアル・ハラスメント防止等に関する研修がコンベンションセンター会議室において実施されました。この研修は、今年度において、新任の部局長、専攻長、学科長、事務(部)長、課長、補佐、技師長、看護師長及び新任の教授等の新たに監督者となった教職員及びセクシュアル・ハラスメント防止等に関する部局委員会委員等に対して、セクシュアル・ハラスメントの防止等に関し、その求められる役割等について理解させることを目的としたもので、58名が参加して実施されました。

人権問題委員会委員長の山口 彰 工学研究科教授からの挨拶の後、人間科学研究科の准教授である木村涼子先生から「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント防止対策と学習環境の整備」と題する講演が行われました。

講演では、大学におけるセクシュアル・ハラスメント防止対策の現状と課題並びにカナダのトロント大学及びヨーク大学の取り組みの状況等について、具体的な例を交えて



説明されました。

受講者は熱心にメモを取り、最後に質疑応答が行われ、好評のうちに終了しました。

(総務部人事課)

## 高等司法研究科・法学研究科附属法政実務連携センター主催 公開講義「特許制度の最近の課題」

11月26日(木)に、経済産業省特許庁総務部総務課長の広実郁郎氏を講師としてお迎えし、公開講義「特許制度の最近の課題」を開催しました。

講義では、特許出願・審査の現状から、特許制度の今後の検討課題についてまで、今日の特許制度を取り巻く問題についてお話していただきました。

審査の迅速化への取組み等の手続制度の現状と将来に始まり、特許制度について、今どのようなことが検討対象となっているのかまで詳しく説明していただき、大変密度の濃い講義となりました。知的財産制度の最先端におられる広実先生のお話を直接聞くことができる機会とあって、参加者は皆熱心に聞き入っていました。話の中では、常に「なぜ」そうになっているのかということを論理的に説明していただき、学生達は納得して講義を理解し、特許制度への関心を高めることができたようです。



参加者からは「ひとつの制度ができるまでには多くの過程がふまれていることが、よくわかりました」「常に疑問をもつことがいかに大切かをあらためて感じた」「どのような制度が望ましいのだろうと考える機会を得ることができた」等の感想が寄せられました。

(高等司法研究科、法学研究科・法学部)

## 高等司法研究科・法学研究科附属法政実務連携センター主催 公開講義「意匠を巡る潮流」

12月17日(木)に、経済産業省特許庁審査業務部意匠課長の川崎芳孝氏を講師としてお迎えし、公開講義「意匠を巡る潮流」を開催しました。

講義では意匠権の概要、意匠制度の現状についてお話していただきました。知的財産制度、意匠制度の概要に始まり、意匠制度の国際的現状、著作権といった他の知的財産権との関係について説明され、意匠制度の第一人者である川崎先生からお話を伺えるまたとない機会と、学生達は真剣に講義に臨んでいました。特に意匠制度の国際的現状、各国の意匠制度の差異及びその文化的背景に関する考察は



学生達の関心を引いたようであり、講義後、多くの感想が寄せられました。また、スライドを用いて豊富な具体例に基づいた明快な解説をいただいたので、理解も一層進み、参加者一同、意匠制度の重要性を改めて実感したようでした。

参加者からは「消費者の購買意欲を生じさせる要素としてデザイン、意匠がかかわっていることがわかった」「国によって違いがあるのは各国のデザイン保護の歴史や生活習慣にも由来があるということを聞き、価値観の違いから来る制度の違いを感じた」等の感想が寄せられました。

(高等司法研究科、法学研究科・法学部)

附属図書館

クリスマスコンサート「ギターが奏でるXmas」開催

大阪大学附属図書館クリスマスコンサート「ギターが奏でるXmas」を12月18日の夕方から総合図書館6階図書館ホールでおこないました。

第4回目となる今回は、プロのフラメンコ・ギタリストである中島桃子氏とフルーティスト川端裕美氏を迎え、クラシックギターと異なる、より華やかな音色をもったフラメンコ・ギターと、木製フルートの暖かみのある音色が奏

でるフラメンコの曲やクリスマス・ソングの演奏を一時間にわたって楽しみました。

当日は、厳しい冷え込みにもかかわらず近隣の一般市民約20名を含む105名の参加者があり、「やさしい音色や激しい音やバラエティに富んでいて楽しく聴きました」「心地よい時をすごせました」といった感想が多く寄せられました。



コンサート会場の様子



(附属図書館)

歯学部附属病院で「第10回年末ふれ愛コンサート」を開催

歯学部附属病院で恒例行事となった「年末ふれ愛コンサート」が12月18日(金)に歯学研究科弓倉記念ホールにおいて開催されました。会場には開演前から多くの患者さん、家族が来場し賑やかなムードの中、若手歯科医師が扮したトナカイとサンタの司会で幕が上がりました。教職員、学生らがそれぞれに工夫したクリスマスメイクで登場し、バンド、音楽ショー、コーラス、ハンドベルそして斉唱、独唱と次々パフォーマンスを繰り広げました。次第に熱くなるステージを食い入るように見つめる子供たち、携帯カメラを片手に何枚もベストショットをおさめている患者さんの姿もありました。ラストは会場内の全員で「見上げてごらん夜の星を」を斉唱し、患者さんも職員も声を合わせ、気持ちを重ねたステージのしめくりとなりました。

患者さんからは「先生方の温かさを感じた」「手術が心配だったけど歌声を聴いて安心した」「こんな機会を与えてもらって入院してよかった?！」という声が聞かれまし



た。今年で10回目を数える年末ふれ愛コンサートがその名のとおり患者さんと病院職員とのふれ愛を深める場に行っていることを実感しました。

(歯学部附属病院)

## FRC学生チャレンジ 第7回サタデーランチ

「サタデーランチ」は、工学研究科附属フロンティア研究センター（FRC）が学生のユニーク&チャレンジングな企画提案を支援する「学生チャレンジ」プログラムに採択されています。この企画は、高校生に阪大を紹介することが目的ですが、通常のオープンキャンパスなどとは異なり、学生主導で少人数の高校生に阪大生の普段の生活の様子なども紹介するということを目的に年に数回開催しております。今年度もこれまでに6回開催し、参加した高校生の皆さんからは阪大生のリアルな話が聞けて良かった等、ご好評をいただいています。

12月19日(土)に、第7回のサタデーランチを開催しました。今回は、大学ならではのサークル活動を体験してい



ジャグリングショー



昼食会

ただため、阪大ジャグリングサークル Patio のショーを観覧しました。当日は強風が吹き荒れる厳しい寒さの中の野外ショーとなり、ジャグラーの三人にとっても大変厳しい条件でしたが、見事な演技を披露してくれました。ショーの終了後は、実際にジャグリングを体験してもらい、サークル活動についての質問をうけました。

その後、工学部食堂「ファミリー」での昼食会では、受験勉強について話が弾み、阪大の入試やセンター試験に向けての勉強法などアドバイスをさせていただきました。

昼食後は応用化学専攻生越研究室を見学し、実際に研究で使用している最新の測定機器や、普段、主に学生が使用しているスペースなどを見学した後、簡単な実験に挑戦してもらいました。実際に研究を行っている大学生、大学院生の中に交じって作業をすることで、大学での研究活動を感じてもらうことができたのではないのでしょうか。

本企画は、FRC からの支援に加えて、大阪大学工業会からも協賛を得ており、関係者に感謝申し上げますとともに、次回開催に向けて、より一層イベントを盛り上げていく予定です。



研究室の見学

サタデーランチのHPを作っております。是非、お立ち下さい。

[http://www.chem.eng.osaka-u.ac.jp/gakupro/saturday\\_lunch/index.html](http://www.chem.eng.osaka-u.ac.jp/gakupro/saturday_lunch/index.html)

(サタデーランチ実行委員会)  
(工学研究科・工学部)

## 「マイクロフィルム取扱い研修会」を開催

附属図書館では、12月22日に近畿地区国公立大学図書館職員を主たる対象として研修会「写真フィルムの保存について - あなたの図書館のマイクロフィルムは大丈夫? -」を開催しました。

研修会には、学内の図書館等職員27名のほか、近畿地区の大学・公共図書館・資料館の職員、教員等、計67名が参加しました。

今回の研修は、当館がビネガーシンドロームを発生していたマイクロフィルムについて、(財)田嶋記念大学図書館振興財団平成20年度助成費により保全作業を依頼した(株)堀内カラー・アーカイブサポートセンターに講師をお願いしました。

まず、「写真フィルムの保存」では写真フィルムの原料が牛骨などのゼラチンによることから講演が始まり、フィルムの構造、劣化、ビネガーシンドローム対策等、長期保



研修会場の様子



マイクロフィルム関連機材

存には労力と費用がかかることを認識。次の「資料のデジタル化」では写真フィルムの現状、デジタル化の目的、デジタルデータ作成ポイント等、それぞれの図書館等で課題となっているフィルム資料のデジタル化の問題点を的確に捉えた講演が行われました。

また、実習ではTACベースフィルムを指で破ることでフィルムの特質を捉えたり、ビネガーシンドローム特有の酢酸臭を体験、加水分解したフィルムの確認等も行いました。

附属図書館では昨年度から「図書関係業務研修会」として、図書館職員が継承していくべき知識や技術に焦点を当てた実習を含む研修会を企画し、近畿地区国公立大学図書館職員等にも広く公開しています。今回は3回目に当たるが、講義後に体験する実習が毎回好評で、継続的な研修会を希望する声が高いものです。

(附属図書館)

## 「OSAKA光のルネサンス2009」へ参加

中之島センターは、12月、大阪市中之島地区において開催された「OSAKA光のルネサンス」(2009.12.1～12.25)に、昨年に続き参加協力しました。本年も中之島センター隣が中之島西部エリアのメイン会場となり、大勢の方々が来場されました。

この事業は、本学の第4のキャンパスでもある中之島センターを中心に行う社会学連携活動の一環として位置づけ、中之島地区の活性化と本学の社会学連携の拠点として広く社会にアピールすることを目的として参加しているものです。

今回は、センター東壁面全体を使用し、窓の内側に設置



LEDの取付けは  
学生も作業を行いました

したLEDイルミネーションにより、上から下に流れるシューティングドロップが「降り積もる雪」を表現しました。この設置作業には、昨年同様、本学学生公認団体「阪大ベンチャーファクトリー」の学生が協力し、専門業者の指導のもと一部屋ずつ丁寧に取り付けを行いました。合わせて、中之島センターを多くの市民の皆様にご覧いただき、大阪大学をアピールするた

めに、東側10階にネームサインを設置し、会期中中之島の夜に「OSAKA UNIVERSITY」の文字が浮かび上がりました。

西地区会場では、関西電力(株)のご協力により、「社会学連携による光のまちづくり デジタル・ウォール・アート」を実施し、「知の交流拠点」である中之島センターが身近で社会に開かれた「姿」をデジタル・ウォール・アートで表現しました。縦長のセンター壁面をキャンパスに見立て、さまざまなデジタルコンテンツ「万華鏡」による新しい景観を生み出す様子には、多くの来場者が足を止めていました。

また、この期間中、「光のルネサンス2009」に連動して、5日間にわたって中之島センター1階ロビーにおいて「夢灯りコンサート」と題し、大阪大学アカペラサークル「Chocolat Nouveau」、大阪大学軽音楽部「SWING」及び大阪大学交響楽団の学生サークルの皆さんによる演奏会が行われました。クリスマスにちなんだ演目も多く奏でられ、クラシック室内楽やジャズの軽快な音色が冬の中之島を包み、多くの来館者で賑わいました。



アカペラサークル「Chocolat Nouveau」による演奏



大阪大学交響楽団による弦楽四重奏



大阪大学軽音楽部「SWING」によるジャズ演奏



大阪大学軽音楽部「SWING」によるジャズ演奏

(広報・社会学連携室)

## 年始の総長あいさつ及び賀詞交歓会開催

新年1月4日(月)に、コンベンションセンター MO ホールにおいて、鷲田清一総長から年始のあいさつがありました。

総長はあいさつの中で、教職員一人一人の意識の在り方について述べられるとともに、2010年度の目標のうちから特に集中的に取り組む課題の説明をされ、出席した教職員350名は身を引き締めて聴き入りました。

また、引き続き場所を同センター会議室1に移して、教職員約110名の出席により、賀詞交歓会が開催されました。



はじめに鷲田清一総長から新年の挨拶が述べられた後、鷲田清一総長、辻穀一郎理事・副学長、高杉英一理事・副学長、門田守人理事・副学長による鏡開きが行われ、西田正吾理事・副学長の発声による乾杯で開会しました。出席者には樽酒がふるまわれ、途中職員有志による余興があり、新年の慶びをにぎやかに祝いました。

出席者は、今年1年が充実した年であることを祈念するとともに、大阪大学のさらなる発展のために尽力していくことを誓い、盛会のうちに閉会しました。



## フォトニクス先端融合研究拠点(文部科学省プログラム) 平成22年より継続課題と決定

大阪大学では、平成19年～21年において文部科学省科学技術振興調整費「先端融合領域イノベーション創出拠点形成」プログラムのフォトニクス先端融合研究拠点(総括責任者: 鷲田清一総長、フォトニクス先端融合研究センター長: 河田聡教授)を実施してきました。この度、文部科



総長主催のフォトニクス拠点運営委員会で  
産学連携イノベーションを議論

学省による平成21年度再審査によって、本プログラムは平成22年より引き続き7年間の継続課題と決定されました。本プログラムは、文部科学省が、イノベーションの創出のために特に重要と考えられる先端的な融合領域において、企業(協働機関)とのマッチングにより、新産業の創出等の大きな社会・経済的インパクトのある成果を創出する研究開発を行う拠点の形成を支援するものです。

本フォトニクス先端融合研究拠点は、「金属のナノフォトニクスであるプラズモニクスという新しい性質・技術に関する基盤的研究開発を核とした活動であることに特徴があり、大きなイノベーションにつながるテーマ; 高密度記録、バイオセンサ、有機太陽電池、セキュリティ、分析機器開発などでの成果が期待できる」と評価されました。人材育成では、先端フォトニクスの科学と技術を推進する能力を持ったグローバルに活躍できる「自立した博士の養成」が期待されています。

(工学研究科・工学部)

## 系びす男選②阪大坂2010

2010年1月10日十日戎。西宮神社で福男が選ばれる同日の早朝、阪大坂では「系びす男選②阪大坂2010」が開催され、阪大生と地域住民の125人が福男「系びす男」を目指して阪大坂を全速力で駆け抜けました。阪大坂を駆け抜け、ゴール地点にある3着のハッピーから、「系びす男」と書かれたハッピーを手にした参加者が今年の系びす男です。脚力と体力と運を兼ね備えた2010年の系びす男は基礎工学部4年の武田考功さんに決定しました。系びす男レースの後は、皆で豚汁を食べ、ゲームや賞品抽選会で、地域と大学の交流を深めました。

系びす男選②阪大坂は石橋商店街と経済学研究科松村ゼミを中心とする学生有志によって主催されています。地域と学生・大学の関わり方をもっと深いものにしたい、地域と大学が楽しさを共有できる恒例行事を作りたいという思いから、地域と大学を分断する阪大坂を敢えて利用し、2007年より開始されました。そして今年で4年目、年々参加人数や見学者が増えるだけでなく、リピーターも多くな



り、もはや地域の恒例行事と呼べるようになりました。これからも、地域と大学の福を願って、系びす男選②阪大坂は開催されます。2011年1月10日は皆さん是非早起きを！

(系びす男選②実行委員会)

## Vikas Swarup 駐大阪インド総領事が鷲田清一総長を表敬訪問

インド大阪総領事館に新しく昨年の8月に着任されたVikas Swarup 総領事が、1月12日(火) Pieyush Gupta 領事を伴い、鷲田清一総長を初めて表敬訪問しました。懇談は、日本とインドの教育、哲学、将来的な研究協力、教育交流など多岐にわたりました。当日の表敬訪問には、本学の高橋 明 世界言語研究センター長、Singh Surya Prakash 工学研究科特任助教、Chattopadhyay Prosen 工学研究科特任助教、Verma Prabhat 生命機能研究科准教授が同席しました。表敬訪問後、馬場章夫工学研究科長を訪問し、懇談後、同研究科知能・機能創成工学専攻の浅田 稔教授の案内で、子供型ロボット「CB2」を見学され、熱心に質問をされていました。

(国際部国際交流課)



前列左から鷲田総長、Swarup総領事、高橋世界言語研究センター長

### 第3回神戸大学・京都大学・大阪大学連携シンポジウム - バイオテクノロジーによる持続可能な社会の構築 - 開催

神戸大学、京都大学及び大阪大学の3大学が連携し、世界に通用する高度人材育成行い、関西の知的創造拠点を形成することを目的とした国際シンポジウムが1月20日(水)大阪国際会議場において開催され、大学、企業関係者や経済界等から約300名が参加しました。

昨年開催された第2回(幹事校: 京都大学)に引き続き第3回目となる今回は、神戸大学が幹事校となり、「バイオテクノロジーによる持続可能な社会の構築」をテーマに行われました。シンポジウムは、神戸大学福田秀樹学長、京都大学松本 紘総長、大阪大学鷲田清一総長、の三大学



の総長・学長挨拶から始まり、山口彰宏三井化学副社長、コリン・ウェブマンチェスター大学教授各氏による講演が行わ

れました。後半には、クリス・ソンマービル EBI 所長・カリフォルニア大学バークレー校教授、田中隆治サントリー株式会社技術監・金



沢大学理事、瀧本正民豊田中央研究所代表取締役、新名惇彦奈良先端科学技術大学院大学理事・副学長各氏による講演に引き続き、「産学官連携による技術改革と産業化」をテーマとして、コーディネーターに宮田 満日経 BP 者先端技術情報センター長、パネリストに植田充美京都大学教授、大竹久夫大阪大学教授、近藤昭彦神戸大学教授そして、西島章次神戸大学元理事を迎えての講演、パネルディスカッションが行われ、活発な討議が行われました。

(企画部広報・社会学連携事務室)

### 在阪報道各社と大阪大学との懇談会開催

2月4日(木)中之島センターにおいて、本学の最新の教育・研究活動について情報発信するとともに、報道関係者との意見交換を目的とした「在阪報道関係者との懇談会」が開催されました。

中之島センター9階の会議室において開催された懇談会には、本学からは鷲田清一総長をはじめ、各理事、幹事及び総長補佐等が、報道関係からは12社から15名の出席がありました。鷲田総長の挨拶、大学関係者及び報道関係者全員の自己紹介の後、2010年の「大阪大学の取り組み」について総長、各理事から報告・説明の後、報道各社との意見交換が行われました。



懇談会風景

今回は、大学からの情報提供と言う形にとらわれず、報道各社からの大学に対する要望や率直な意見感想を述べていただき、膝をつき合わせてざっくばらんに意見を交わす形での開催とし、隣室の交流サロンに用意された食事を適宜とりながらの和やかな雰囲気の中活発に意見交換がなされました。

また、懇親会では、大学・科学記者クラブ幹事社である朝日新聞社の発声により乾杯が行われ、懇談会に引き続き本学関係者と報道各社の方々の活発な情報交換が行われ、貴重な機会となりました。



在阪報道関係者と情報交換を行う鷲田総長

(企画部広報・社会学連携事務室)

## 河村 悟教授「平成21年度科学研究費補助金第1段審査における審査委員表彰」

生命機能研究科の河村悟教授が、独立行政法人日本学術振興会より、平成21年度科学研究費補助金第1段審査における審査委員表彰を受けられました。

科学研究費補助金は、人文・社会科学から自然科学まですべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を格段に発展させることを目標とする「競争的資金」であり、ピア・レビュー（専門分野の近い複数の研究者による審査）により、審査されています。科学研究費補助金制度を適正・公平に運営していくにあたって、審査委員は、ピア・レビュー審査の信頼性を損なうことがないよう、科学的良心に従って、公平・公正に審査を行うことが求められます。

今回は、約3,300名の第1段審査委員の中から、模範となる審査意見を付した審査委員20名が選考され、本学からは河村悟教授が選ばれました。



表彰は、総長より、日本学術振興会からの表彰状及び記念品が手渡されました。

（研究推進部研究推進課）

## 鈴木義茂教授「第20回つくば賞」受賞

つくば賞は、財団法人茨城県科学技術振興財団とつくばサイエンス・アカデミーが主催しているもので、茨城県内において、科学技術に関する研究に携わり、世界的な評価を受けた顕著な研究成果を収めた者を表彰することにより、科学技術の振興に寄与することを目的として創設された賞です。

今回、大阪大学大学院基礎工学研究科の鈴木義茂教授が、独立行政法人産業技術総合研究所エレクトロニクス研究部門スピントロニクスグループのグループ長である湯浅新治博士と共同で受賞しました。

授賞式は昨年（2009年）11月20日（金）、つくば国際会議場において行われました。

受賞対象となった研究は「 $\text{SMgO}$  トンネル素子の巨大トンネル磁気抵抗効果の実現と産業応用」です。

厚さ数ナノメートル以下という極めて薄い絶縁体層（トンネル障壁という）を2枚の強磁性金属層で挟んだものを「磁気トンネル接合（MTJ）素子」と呼びます。この素子では、両側の強磁性層の磁化の向きがお互いに平行な場合と反平行な場合で、その電気抵抗が変化します。この現象はトンネル磁気抵抗（TMR）効果と呼ばれ、その電気抵抗の変化率（MR比という）は応用上の性能指標になります。TMR効果は、磁気センサー素子や記憶素子（メモリー）に応用できるため、電子スピンを活用した「スピントロニクス」と呼ばれるエレクトロニクスの新分野における最重要技術です。

湯浅博士のグループは、鈴木教授の協力のもとに、トンネル障壁を従来のアモルファス酸化アルミニウム（MR比



が数10%)から、結晶性の酸化マグネシウム（ $\text{MgO}$ ）にかえることにより、2004年に室温で180%という巨大なMR比を実現しました。さらに、2005年には、製造装置メーカーと共同で結晶 $\text{MgO}$ -MTJ素子の量産技術の開発にも成功。その後、この巨大TMR効果を用いた製品開発が行われた結果、2007年にハードディスク（HDD）の磁気ヘッド（ $\text{MgO}$ -TMRヘッド）として実用化され、最近のHDDの飛躍的な大容量化に大きく貢献しました。さらにこの技術は、大容量の不揮発メモリー（MRAM）やマイクロ波発振素子など次世代電子機器の画期的な省電力化や高性能化などにもつながると期待されており、阪大・産総研・企業の協力のもとに現在も研究が推し進められています。

（基礎工学研究科・基礎工学部）

## 伊東信宏准教授「サントリー学芸賞」受賞

文学研究科文化表現論専攻（音楽学）の伊東信宏准教授が、第31回サントリー学芸賞（2009年度）を受賞しました（芸術・文学部門）。

この賞は、広く社会と文化を考える独創的で優れた研究、評論活動を、著作を通じて行った個人に対して、与えられるもので、選考にあたっては、個性豊かで将来の期待される新進の評論家、研究者であること、本人の思想、主張が明確な作品であることに主眼が置かれます。これまで日本を代表する研究者、評論家を数多く輩出しており、人文・社会科学の分野では最も権威ある賞の一つです。

今回の受賞は著書『中東欧音楽の回路：ロマ・クレズマー・20世紀の前衛』（岩波書店）を対象としたものです。同書は、ヨーロッパにおける村の楽師たち、つまりロマ（ジプシー）やユダヤ人たちの音楽と、ストラヴィンスキーやバルトークといった20世紀の前衛音楽との関係を扱ったもので、「これまでの音楽史像を書き換えるにとどまらず、それを考えるための思考の枠組みや問題系全体を問い直す、



まことに壮大な試み」と高く評価されました。

贈呈式は、2009年12月10日（木）東京・千代田区の東京会館において開催され、本賞の楯、および副賞が授与されました。

（文学研究科・文学部）

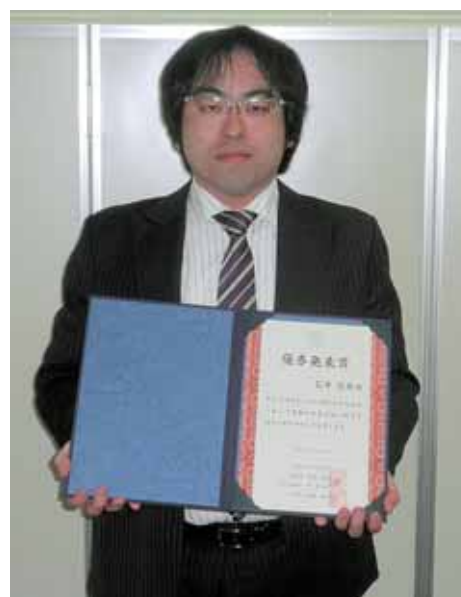
## 石井克典助教「第21回日本レーザー歯学会総会・学術大会優秀発表賞」受賞

工学研究科環境・エネルギー工学専攻の石井克典助教が、「第21回日本レーザー歯学会総会・学術大会 優秀発表賞」を受賞しました。

日本レーザー歯学会優秀発表賞は、レーザー歯学の基礎または臨床応用に関する貴重な研究を行い、その論文発表が特に優秀な研究者に授与されるものです。

受賞研究は「中赤外波長可変ナノ秒パルスレーザーを用いたう蝕象牙質選択的除去の基礎的検討」です。波長6μmという特殊な波長のレーザーを用いて健全歯に低侵襲に虫歯（う蝕象牙質）を選択的に治療できることを実験的に示しました。虫歯だけを治療することができるという従来法にはないコンセプトで、ミニマルインターベンションの概念に則した次世代歯科治療を実現する画期的な技術および装置開発に向けた基礎研究として、高く評価されました。授賞式は第21回日本レーザー歯学会総会・学術大会期間中の11月23日（月）に、福岡県歯科医師会館において行われました。

（工学研究科・工学部）



## 本多典広君「第30回日本レーザー医学会総会賞」受賞

工学研究科環境・エネルギー工学専攻、博士前期課程2年の本多典広君が、「第30回日本レーザー医学会総会賞」を受賞しました。

日本レーザー医学会総会賞は、レーザー医学の基礎または臨床応用に関する貴重な研究を行い、その論文が特に優秀な研究者に授与されるものです。

受賞研究は「Inverse Monte Carlo 法による光線力学療法前後の腫瘍組織の光学特性の算出」です。この研究は、生体組織の光学特性を算出するための装置および計算手法を開発し、がん組織の光学特性（光がどれだけ吸収されるか、散乱されるかを表す物理パラメータ）および光線力学療法（がんのレーザー治療法）による光学特性の変化について検討を行ったものです。光線力学診断・治療の高度化に向けた非常に重要な基礎的知見を得たことが高く評価されました。

授賞式は第30回日本レーザー医学会総会期間中の12月2日（水）に、東京都新宿区のホテルグランドヒル市ヶ谷において行われました。

（工学研究科・工学部）



## 川崎隆志君、古川直樹君 日本金属学会第7回World Materials Day Award受賞

工学研究科マテリアル生産科学専攻（マテリアル科学コース）結晶成長工学領域（藤原康文教授）博士前期課程2年川崎隆志君と博士前期課程1年古川直樹君が、日本金属学会第7回World Materials Day Award（全国1件）を受賞しました。

材料系国際学協会連携組織であるIOMMMS（International Organization of Materials, Metals and Minerals Societies）では、World Materials Dayを制定し（2009年は11月4日（水））、この日に世界同時に、「材料に関する知識とその重要性を社会や若者に啓発する活動」に貢献があった学生を顕彰しています。日本においては、日本金属学会が主催して実施しているものです。

今回対象となった貢献は、「世界初！ ユウロビウム添加窒化ガリウムを用いた電流注入型赤色発光ダイオード」であり、希少金属のInや有害なAsを含まない赤色発光ダイオードを、従来の緑色や青色の発光ダイオードと同じ窒化物半導体を用いて実現したことが評価されました。

尚、本研究は科学研究費補助金学術創成研究費「希土類



左から掛下教授、川崎君、古川君、藤原教授

元素添加の精密制御による物性・機能性の開拓」（研究代表者：藤原康文教授）とGCOEプログラム「構造・機能先端材料デザイン教育研究拠点」（拠点リーダー：掛下知行教授）のもとで推進されました。

（工学研究科・工学部）

## 新教授紹介

飯塚 一 幸 (いづか かずゆき)

大学院文学研究科



## 【略歴】

- 昭57. 3 京都大学文学部史学科卒業  
 60. 3 京都大学大学院文学研究科国史学専攻修士課程修了  
 63. 3 京都大学大学院文学研究科国史学専攻博士後期課程研究指導認定退学  
 63. 4 京都大学文学部研修員  
 平 5. 4 舞鶴工業高等専門学校講師  
 8.10 佐賀大学文化教育学部助教授  
 19. 4 大阪大学大学院文学研究科准教授  
 22. 1 大阪大学大学院文学研究科教授

所 属：大学院文学研究科文化形態論専攻日本史講座  
 専門分野：日本近代史

藤井 英 俊 (ふじい ひでとし)

接合科学研究所



## 【略歴】

- 昭63. 3 早稲田大学理工学部材料工学科卒業  
 平 2. 3 早稲田大学大学院理工学研究科資源及材料工学専攻修士課程修了  
 2. 4 早稲田大学大学院理工学研究科資源及材料工学専攻博士後期課程入学  
 4. 4 早稲田大学理工学部助手  
 5. 6 博士(工学, 早稲田大学)  
 5. 9 新技術事業団/ケンブリッジ大学日英共同研究研究員  
 7. 4 ケンブリッジ大学リサーチアソシエイト  
 8. 7 大阪大学助手接合科学研究所  
 9.11 大阪大学助教授接合科学研究所  
 19. 4 大阪大学准教授接合科学研究所  
 22. 2 大阪大学教授接合科学研究所

所 属：接合科学研究所機能評価研究部門  
 専門分野：機能性診断学、接合組織学、接合プロセス学

## 松田治和名誉教授(工学部)逝去



本学名誉教授松田 治和先生は、平成 21 年 12 月 12 日(土)に逝去されました。享年 80 歳でした。

松田先生は、昭和 28 年 3 月大阪大学工学部を卒業後、同大学大学院研究奨学生となり、修士ならびに博士課程を修了し、昭和 33 年 4 月に大阪大学工学部助手となり、その後、助教授を経て昭和 53 年 5 月大阪大学教授に就任し、工学部石油化学科第一講座を担当されました。さらに昭和 61 年 7 月に評議員を、昭和 62 年 8 月に工学部長・同研究科主任を、平成 2 年 4 月に大型計算機センター長を併任されたのち平成 5 年 3 月に停年退官されました。

この間、先生は有機工業化学領域の教育・研究に努められ、我が国における有機典型金属化学の基礎を築き、とくに有機スズ化合物のもっとも効率的な直接合成法を確立し、

世界ではじめて工業化に成功し、注目を浴びました。この研究に端を発し、各種有機典型金属化合物に研究の対象を拡げ、それらの持つ新しい化学的特性を見出し、有機合成化学分野のみならず光電子材料分野において応用研究を広範囲に展開されました。これらの一連の業績により、平成 3 年度日本化学会賞をはじめ、多くの賞を授与されました。

学内においては、多くの委員会委員を歴任され、評議員、工学部長を務められた間、最新鋭大型設備の導入に取り組むと共に、工学部の多彩な改組拡充案を精力的に取りまとめられました。大型計算機センター長を務められた間は、大学間ならびに学内情報ネットワークの整備に尽力され、全国大型計算機センター長会議常置委員会委員長として全国共同利用のとりまとめにも貢献されました。

学外においても、社団法人日本化学会副会長、同広報専門委員会委員長、同近畿支部長、社団法人近畿化学協会事業企画委員長など、多数の学協会の理事や評議員を歴任され、広くそれらの運営や活動に貢献されました。

大阪大学停年退官後は、大阪工業大学教授として教育活動を行うとともに、平成 8 年 4 月に大阪府立産業技術総合研究所所長に就任され、長年にわたり地域産業界の産業技術発展に尽力されました。

松田先生は、一貫して人と人とのつながりを大切にする立場をつらぬかれました。教育にも熱意をもって取り組み、卓越した人材を多数、社会におくりだされました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

(工学研究科・工学部)

## 吉川利治名誉教授(大阪外国語大学)逝去



大阪外国語大学名誉教授吉川利治先生は、平成 21 年 12 月 31 日(木)、心不全のためご逝去されました。享年 70 歳でした。

先生は、昭和 38 年 3 月大阪外国語大学外国語学部を卒業、昭和 39 年 3 月までタイ国立チュラーロンコーン大学文学部に留学後、昭和 39 年 4 月大阪外国語大学助手に着任されました。その後、同大学講師、助教授を経て昭和 60 年 1 月に同大学教授に昇任し、昭和 44 年 7 月からは、大阪外国語大学大学院外国語学研究科、引き続き平成 9 年 4 月からは同大学院言語社会研究科博士課程(前期・後期)を担当し、学部・大学院におけるタイ語・タイ文化の教育・研究にご尽力されました。平成 17 年 3 月に大阪外国語大学を定年退職され、平成 17 年 4 月に大阪外国語大学名誉教授の称号を付与されました。

先生のご専門はタイ史、タイ文化の研究でその内容は多岐に渡りますが、代表的な研究は明治時代以降のタイと日本との交渉史の研究でした。日本とタイの双方の公文書・文献資料を博搜し、タイの近代化に寄与した日本人の足跡とその功績を明らかにする一方、第二次世界大戦中の日本軍のタイ国進駐とタイ国側の対応を実証的に研究されました。その成果は『日・タイ交流六〇〇年史』(1987 年、共著)、『泰緬鉄道—機密文書が明かすアジア太平洋戦争』(1994 年)としてまとめられ、国内外の学会で大変高く評価されています。この二つの著作を含め先生の研究業績の多くはタイ語に翻訳されており、タイ国の学界からも高い評価を受けています。また、日タイ交渉史研究以外にも、タイの伝統的統治と規範に関する研究、国家論・王権論、口承文芸の研究など、幅広く研究を行ってこられました。

学外においては、京都大学東南アジア研究センター兼任教授、日本学術振興会バンコク研究連絡センター長、タイ国立シンラパコーン大学文学部客員教授としてご活躍され、東南アジア史学会(現在の東南アジア学会)の会長も務められました。退職後も、日タイ文化・学術交流に積極的に参加され、堺市歴史文化交流会議の研究委員会としてもご活躍されていました。また、お亡くなりになられたのは、タイ国のアユタヤ歴史研究センター運営改善計画への助言を行なう JICA のシニア海外ボランティアとして滞在中の古都アユタヤにおいてのことでした。

先生のタイ史・タイ文化研究のご功績と日タイ文化・学術交流でのご活躍を偲び、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(世界言語研究センター)

## 岡村弘之教授(核物理研究センター)逝去



本センター教授岡村弘之先生は、1月3日(日)にご逝去されました。享年47歳でした。

先生は、昭和59年3月京都大学理学部をご卒業後、平成元年7月同大学院後期博士課程を修了され、理学博士(京都大学)の学位を授与されました。平成2年3月東京大学理学部助手に採用され、平成3年1月同大学理学部附属素粒子物理国際研究センター助手を経て、平成10年4月埼玉大学理学部助教授に昇任、平成15年4月には東北大学

サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター教授に昇任、平成18年4月大阪大学核物理研究センター教授に着任されました。

先生は、高分解能荷電交換反応( $d, {}^2\text{He}$ )を確立され、原子核のスピン・アイソスピン励起に関する核反応、核構造の研究に多くの成果を挙げられました。先生のご研究は実験分野にとどまらず、実験結果の理論解析手法の開発にもおよんでいます。その解析コードは世界的スタンダードとして広く利用されています。さらに、先生は卓越した実験能力を如何なく発揮され、重陽子-核子三体系の多重度偏極量の精密測定に成功されました。その成果は、最近盛んに議論されている核子多体系における三体力研究の先駆けとなり、少数核子系の研究発展に多大な貢献をなされました。また、先生は全国共同利用研究センターの実験部門責任者として核物理研究センターの発展に多大な貢献をされるとともに、国内外の多くの研究者との共同研究を推進してこられました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(核物理研究センター)

## 国立大学法人等職員統一採用試験のお知らせ

近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験の試験案内の配布が始まりました。

受験資格：昭和56年4月2日以降に生まれた者

受付期間：4月1日(木)～4月9日(金)

第一次試験日：5月16日(日)

詳しくは下記の事務室にお問い合わせください。

近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験事務室

電話 075 - 753 - 2227 ～ 2230

E-mail : shiken@mail.adm.kyoto-u.ac.jp

## 大阪大学学士会館連絡事務所の利用

学士会館連絡事務所は学士会館連絡事務所使用要項により使用者と用途が定められており、本学職員の利用に限られておりましたが、平成22年1月20日から本学同窓会組織（支部を含む）も利用できることとなりました。

同窓会組織の利用を開始することに伴い、円滑な利用を計るため、申し込みの期間を定め、申し込み方法を変更しました。変更点は以下のとおりです。

なお、同窓会組織が利用する場合は、代表者の方を登録する必要があります。

### 【変更点】

使用申込期間：使用日の1ヶ月前から前日まで

申込方法：FAX または e-mail（使用日時・使用目的・利用人数等）

申込み先：総務部総務課総務係 内線 吹 7014

FAX 06-6879-7008

e-mail : soumusousumusoumu@ns.jim.osaka-u.ac.jp

使用者の登録：同窓会・支部名、代表者名、連絡先（電話・メールアドレス）〔同窓会のみ〕

### 【大阪大学学士会館連絡事務所の概要】

所在地 東京都千代田区神田錦町 3-28（学士会館内）

<http://www.gakushikaikan.co.jp/>

電話：.03-3292-5936

地下鉄都営三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線

「神保町」駅下車 A9 出口 1 分、

地下鉄「竹橋」駅から徒歩 5 分

「東京」駅北口からタクシーで 10 分

使用できない日

学士会館の休館日（年末年始・夏季休館日（お盆の期間）等）

使用時間 午前 9 時～午後 9 時

平面図等



問合せ先：大阪大学総務部総務課総務係

電話：06 - 6879 - 7014

e-mail : soumusousumusoumu@ns.jim.osaka-u.ac.jp

記 念 講 義

平成 22 年 3 月 31 日限りで定年等により退職される教授の記念講義を、日程等が決まったものについてお知らせします。

| 部局（講座・部門等）                             | 氏 名     | 日 時・場 所                                         | 講 義 題 目                            |
|----------------------------------------|---------|-------------------------------------------------|------------------------------------|
| 理学研究科<br>（高分子科学専攻・高分子凝集系科学講座）          | 奥 山 健 二 | 平成22年3月9日（火）<br>9時00～<br>理学部大講義室（D501）          | コラーゲンと共に                           |
| 理学研究科<br>（化学専攻・無機化学講座）                 | 渡 會 仁   | 平成22年3月9日（火）<br>15時40分～<br>理学部大講義室（D501）        | 界面・微粒子分析科学の方法論                     |
| 医学系研究科<br>（内科系臨床医学専攻・内科学講座・消化内科学教室）    | 林 紀 夫   | 平成22年3月16日（火）<br>15時30分～17時00分<br>医学部A講堂        | 肝臓病研究 40 年に学ぶ                      |
| 医学系研究科<br>（内科系臨床医学専攻・情報統合医学講座・医療情報学教室） | 武 田 裕   | 平成22年3月4日（木）<br>16時00分～17時00分<br>医学部A講堂         | 「医療情報学と医療の科学化<br>- DO のサイエンスを目指して」 |
| 薬学研究科<br>（応用医療薬科学専攻・細胞生理学分野）           | 山 元 弘   | 平成22年3月5日（金）<br>15時～16時30分<br>薬学研究科2号館特別講義室（4階） | 免疫学の発展期に学んで                        |
| 工学研究科<br>（地球総合工学専攻・社会基盤工学講座）           | 中 辻 啓   | 平成22年3月19日（金）<br>15時～17時<br>理工学図書館ホール           | エスチュアリー工学<br>科学と工学の狭間の 40 年        |

# バンコクからのホットトーク“ 素晴らしいタイの高校生 ”

- グローバル 30 実施に向けてのタイ高等学校視察から -

バンコク教育研究センター長 関 達 治

日本ではまだまだ寒い毎日ですが、バンコクは乾季が終わり、4月のタイのお正月である水掛祭り（ソンクラーン）にむけて、段々暑くなって来ました。バンコクの今年はいささか異常な気候で、一月初めから大雨が降ったりしています。この異常がつづき猛暑の夏とならないことを祈っています。

さて、ご承知のとおり、本学は平成 21 年度「国際化拠点整備事業（グローバル 30）」に採択され<sup>1)</sup>、ワンストップサービスの充実や留学生受入れの充実に向けて事業が始められています。特に、仕分けなどで予算の制約が大きな中、英語によるコースの実施に向けて、担当の皆さんが大変ご苦労されていると聞いています。二階から目薬ではありませんが、バンコクではその緊張感が実感できないので、気楽でもあり困ったことでもあります。しかし、採択された大学の様子バンコクでもチラチラと見えてきました。採択された 13 大学の内容は、本プログラムの幹事大学である東京大学から発行された “Today's Leading Japanese Universities - Guidebook for New Study Opportunities in Japan - ”<sup>2)</sup>に纏められています。他大学に比べて本学は開設するコース数は少ないものの、内容の充実を力を入れているようです。

バンコク教育研究センターは、初代のセンター長である宮本和久先生（現グローバルコラボレーションセンター特任教授）のご努力で設置されてから 4 年目となり、色々な事業がアドホック的に行われていますが、今回のグローバル 30 では、当センターも恒常的且つ実働の一翼を担う貢献が期待されるようです。そこで、英語で授業を行う二つの学部学位取得コースの開設にむけて、タイの高等学校を視察するミッションを企画しました。

なぜ、“高校をターゲットにするのですか”と思われるかも知れませんが、学部コースでは、高校生に入学を案内する必要があるからです。ご存知のとおり、本学は世界に学术交流協定校を持っていますが、高校には何のつながりもありませんでした。すなわち高校生のリクルートが必要となるのです。そこで、多くの留学生の母国であるタイにおける高校の状況を調査するとともに、優秀な学生をリクルートできるかを検討することを、このミッションの目的としました。

ミッションは下記に示しました教職員とスケジュールで実施されました。

【参加教職員】荻原哲教授、梶原康宏教授（以上理学研究科）岡田千あき准教授、

Beverly Anne Yamamoto 講師（以上人間科学研究科）金谷茂則教授、金子嘉信准教授（以上工学研究科）藤山和仁教授（生物工学国際交流センター）卯田健二（国際部国際連携課）関達治センター長、杉山香里副センター長（バンコクセンター）

【ミッションスケジュール】

- 1月18日(月) Chulalongkorn University Demonstration Secondary School 訪問
- 1月19日(火) Triam Udom Suksa School 訪問
- 1月20日(水) 大阪大学ミニセミナー、本学卒業生との意見交換会
- 1月21日(木) Kasetsart University Laboratory School 訪問
- 1月22日(金) Mahidol University International College 訪問、Mahidol Wittayanusorn School 訪問

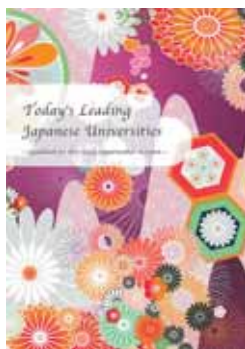
今回のミッション報告に際して、何よりもお知らせしないといけないことは、留学生プロモーションビデオができたことです。これは、国際企画推進本部の荻原教授と石川真由美准教授、他の皆さん

の努力によるところが大きいと聞き及んでいます。教職員の皆さんも留学生のリクルートの際には是非ご覧いただき、

ご持参ください。12 分ほどの短いものです。先日、コンケン大学で行われた日本留学説明会で、小町恭士・在タイ日本国特命全権大使に、“これは今までの国



チュラロンコン大学付属学校での懇談



カセサート大学付属学校のは日本語センターもあり日本人教師による日本語授業も行われていました。



立大学では見られないものですね」と言わせたぐらいです。

今回は生徒との交流ができた二つの高校のお話をします。一つはタイで最も優秀な生徒が集まると言われているトリアムウドムスクサ学校<sup>3)</sup>訪問です。全生徒数は4,600名、教員数は200名弱の巨大な高校ですが、歴史があり、タイ全国から優秀な学生が入学してくるとのことでした。ここでは、200名近い生徒が教室一杯に集まってくれました。英語での学部コースである「Chemistry/Biology Double Major Course」(理・基工・工)と「Human Sciences Course」(人科)の説明、更には梶原先生による生物化学のモデル講義と山本 Beverly 先生によるジェンダのモデル講義を楽しんでくれました。勿論、講義は英語で行われましたが、質問もあり、ディスカッションもありで、高い理解力と英語力に我々は驚嘆するばかりでした。その後、授業の参観など学校施設の見学をしましたが、豚の心臓の解剖をするクラスを見学し、実験なども重視した高度な教育を受けていることを実感しました。



豚の心臓と肝臓の解剖をする生徒たち(トリアムウドムスクサ校)

もう一つはタイ国の科学技術の担い手を育成するため科学教育に特化して作られたマヒドン・ウィタヤヌソン校<sup>4)</sup>の訪問です。ここでは、副校長、国際部の職員と教諭のほか、40名ほどの生徒が参加してくれました。この高等学校は生徒数が一学年240名で全寮制です。学費や食費など生活費(洗濯代もふくめて)がすべて国から支給されます。日本が子育て費などと騒いでるのが嘘のようです。説明会では、本学への留学やプログラムの紹介、金谷先生によるモデル講義を聴いてくれました。また、生徒による高校生活の説明(勿論英語で)がありました。その後、教諭や職員との懇談があり、プログラムへの多くの助言と期待表明をいただきました。卒業生の3分の2はチュラロンコン大学、マヒドン大学に進学し、また外国の大学に進学するとのことでした。構内見学のときに、放課後、工作室で一人、「誰にも開けられない箱？」

の製作に黙々と取り組んでいる生徒やバスケットボールに興じる生徒など、のびのびとしていることと優れた学力に驚きました。この自由さが優秀な人材を作るのではないかと感じました。しかし、タイでも塾通いが多くなってきましたが、段々日本と同じような学生になるのではないかと思います。

このほか、20日には、大阪大学ミニセミナーを持ち、

在タイ日本大使館の富田大志一等書記官(文部科学省派遣)による「タイのトップ20高校」についての報告、タイ文部省高等教育委員会政策計画部 Pornsawan Wongkrai 女史による「タイの大学におけるインターナショナルプログラム」<sup>5)</sup>についての講演などを聴きました。



熱心にモデル講義を聴く教室いっぱいの生徒たち(トリアムウドムスクサ校)

この調査ミッションからは、多くの情報が得られました。例えば、文科省は秋入学を提唱しましたが、東南アジアの国々では高校の卒業時期はまちまちであり、入学の手続きの時期を、かなりの柔軟性を持って対応する必要があることが判りました。また、奨学金も金額の多少に拘わらず、高校側から強く要望されました。留学生の選抜にあたっては、総ての高校を網羅するほどの募集人数もないことから、指定高校制も考える必要があるとの感触を得ています。また、私費での留学生を発掘するためには、両親などを対象とした留学説明会を開催しては、とのアイディアも出されました。これらの調査と体験は、今後のプログラム推進に大いに反映されることが期待されます。



広々とした構内 右手は寮(マヒドンウタヤヌソン校)



放課後、工作室で秘策をねる生徒(マヒドンウタヤヌソン校)



生徒も参加して行われた本学留学説明会(マヒドンウタヤヌソン校)

とにかくご参加いただきました先生方にはご苦労様でした。このようなリクルート活動は継続することが必要と思われるので、全学の先生方にご理解とご協力をお願いいたします。

#### 注

- 1) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/21/07/1280880.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/07/1280880.htm)
- 2) ご覧になりたい方は国際部までご連絡ください。
- 3) [http://en.wikipedia.org/wiki/Triam\\_Udom\\_Suksa\\_School](http://en.wikipedia.org/wiki/Triam_Udom_Suksa_School)
- 4) [http://en.wikipedia.org/wiki/Mahidol\\_Wittayanusorn\\_School](http://en.wikipedia.org/wiki/Mahidol_Wittayanusorn_School)
- 5) <http://inter.mua.go.th/main2/article.php?id=6>

# フィリピン国立大学

Unibersidad ng Pilipinas



フィリピン国立大学 (University of the Philippines=UP) は、2008年に創立100周年を迎えた。100年前...それはフィリピン諸島がスペインからアメリカの手に渡って10年ほどが過ぎた時期だ。スペインは十字架で、アメリカは公教育によってこの島を支配したと言われるが、独立以後も幾多の植民地的状況を経験してきたこの国で、UPは単なる国策的教育機関としてではなく、奥行きと創造性を持ったリーダーたちを育ててきた。

UPには、通常の大学とは異なり、学生たちのごく身近なところに芸術や創作がある。「論文執筆術」などのスキルにとどまらず、この大学では、芸術や創作にも通ずる創造性への意識づけが非常に強く打ち出されているのだ。世界的に著名な映像研究所をはじめ、ヴァルガス美術館、文学創造研究所などの施設は狭い専門性に閉じられていない。UPは、政財界のエリートや科学者に加え、著名な芸術家や作家、映画監督を多く輩出しているが、どの分野のリーダーであれ、創造性と芸術性が求められていると言えるだろう。

仕事やキャリアにおけるミッションへの意識づけもUPの強さの一つだ。UPの学生たちは、16歳で入学し、学生時代、社会活動やフィールドワークに参加し、コミュニケーションや雄弁さ、社会性を身につけるとともに、知識人としての自覚と責任を獲得していく。政治家や財界人が創造性を持つ国で、科学者や芸術家たちは、活動のプロセスに埋没することなく、深く社会に関わったミッションのなかで活動を続けているのだ。

ここで少し大学の概要に触れておこう。フィリピン国立大学は、自然、社会、人文、芸術系の諸学部を擁するディリマン校をはじめとする、マニラ校 (医学健康分野)、ロス・バニョス校 (農学)、バギオ校 (少数民族研究) などそれ



ぞれ特色ある6つの校舎とオープン・ユニバーシティからなる国立大学システムだ。大阪大学は、大阪外語大との統合に伴い、UP全体と交流協定を結び直し、短期留学ならば246の学部プログラム、362の大学院プログラムのいずれかに籍を置きながら単位互換をすることになる (医学・法学院は大学院レベル)。

また大学院生や研究者ならば、さまざまな研究所に客員研究員の制度がある。

宿舎は、ディリマン校の場合、留学生会館のほか、いくつかの研究者用の宿舎を利用できる。正規学生用の寮は、学生たちの社会活動の拠点ともなっている。地方出身者と知り合うためには、こうした学生寮や周辺のボーディングハウスに下宿すると人間関係が広がって面白い。

UPは、大阪大学も加盟する環太平洋大学協会や、アセアン=欧州大学ネットワークのメンバーでもある。2008年度、577名の留学生がUPシステムのプログラムを履修した。このうち、最も人気のあったのは大学院環境工学・生物学プログラムであった。講義の多くは英語だが、UPが知の植民地統治という状態にあるわけではない。フィリピンの人気ポップ・グループの歌に、'The World is not America' という歌があるが、授業のところどころに交えられるフィリピン語のくだけた話が耳に入ってくるようになると、世界を見つめていながら、決して埋没することのないUPの創造性を実感できることだろう。

ホームページ : <http://www.up.edu.ph>



## 編集後記

今号のトピックスで紹介しましたシンポジウム“大阪弁”で語り合う“かんきょう”！？は大学と市民が共に環境について考える機会でした。

私が最近感じた環境問題として温暖化があります。今年、バンクーバーで冬期オリンピックが開催されましたが、今年のバンクーバーは暖かく、平均気温が7.2度と例年を約

4度も上回ったそうです。このため雪が降らず、フリースタイルスキーの会場にはヘリコプターで雪が運び込まれる様子や、バンクーバーの市内ではすでに桜が咲いている映像には驚きました。

(柿木)

## 創作人形劇団せせくらせ

子ども大好き人形劇団



私たち「創作人形劇団せせくらせ」は脚本から人形まで、手作りの人形劇を通して子供たちと交流することを目的とした大阪大学唯一の人形劇団です。活動の中心は幼稚園、小学校、公民館などでのボランティア公演で、大阪府内に限らず滋賀や兵庫、奈良からも公演依頼をいただくことがあります。ほかにも人形劇フェスタに参加したり、年によっては学祭で公演したりもしています。また、毎年8月下

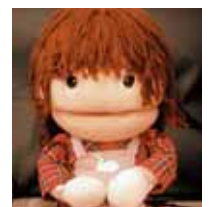


旬には過疎地の小学校を数校回って公演させて頂く『巡回』というせせくらせ最大の行事もあります。昨年は福井県の3つの小学校で公演をしました。巡回では子供たちだけでなく地域の方々との交流もあり、毎年たいへんいい思い出ができています。

普段の稽古は基本的に週2回、仮設サークル棟にある部室で行っています。部員は現在9名と少人数ですが、先輩は後輩を、後輩は先輩を立てながらも親密な人間関係を築いています。意外に思われるかもしれませんが、男女比は半々くらいです。みんな可愛い人形と子供の笑顔が大好きで、楽しくて面白い人形劇にしようと毎回の稽古に打ち込んでいます。と言っても全くお堅い雰囲気ではなく、個性的な人が多くていつも笑いが絶えません。興味を持たれた方、是非気軽に遊びにいらしてください。公演依頼もお待ちしております。

座長 勝田 歩(文2年)

コメント  
人形は作り手に似るといいますが...  
せせくらせの劇を通して人形劇の楽しさを知ってもらえたらと思います。



練習場所: 仮設サークル棟

練習日時: 毎週火・金曜

部員数: 9名

連絡先: ホームページ

<http://page.freett.com/sesekurase/index.htm>

メール(勝田) [kattyan0902@yahoo.co.jp](mailto:kattyan0902@yahoo.co.jp)

## トピックス

# 「大阪大学卒業生の集い」を開催しました

12月12日(土)に「大阪大学卒業生の集い」を学士会館(東京・神田)において開催しました。

これまで、本学ではホームカミングデイを毎年5月のいちよう祭と合わせて開催し、卒業生の方々を母校にお招きしていましたが、特に今回は、多くの卒業生がご活躍されている東京近郊に在勤、在住の方々からの強い呼びかけに応えたものです。

大阪大学からは鷲田清一総長をはじめ、役員、研究科長が参加し、卒業生も様々な世代から多くのご参加をいただき、卒業生の参加者数は250名を超える盛況となりました。

第1部では、鷲田総長による主催者代表挨拶、熊谷信昭元総長による同窓会連合会代表挨拶、辻穀一郎理事・

副学長による大学の活動報告に続き、卒業生講演として小林栄三氏(伊藤忠商事株式会社代表取締役社長・昭47年基工卒)から「内外経済動向と今後の展望」と題し世界の経済情勢についてご講演いただきました。

休憩後、第2部交流会が催され、鶴田康則薬学部同窓会(薬友会)関東支部長が挨拶と乾杯の発声をおこないました。会場では名刺交換や在学中の思い出話に花が咲く様子があちらこちらで見受けられ、世代を越えた卒業生相互の交流を深めるとともに、あらためて母校の発展を祈念する機会となりました。

また、大阪大学男声合唱団OBの方々によって結成された大阪男声合唱団による大阪大学学生歌等の演奏が行われ、交流会を盛り上げ盛会裡に散会となりました。



鷲田総長による主催者代表挨拶



熊谷信昭元総長による同窓会連合会代表挨拶



小林栄三氏(伊藤忠商事株式会社代表取締役社長)による講演



第1部の様子



大阪男声合唱団による大阪大学学生歌等の演奏



第2部交流会の様子  
(企画部広報・社学連携事務局)

阪大 NOW No.116 2010 2月号

2010年2月20日発行

編集 大阪大学広報・社学連携室

発行 大阪大学企画部広報・社学連携事務局 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1

TEL: 06(6879)7017 FAX: 06(6879)7156

ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp/>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせ、記事の提供等がありましたら、下記までお寄せ下さい。

E-mail: [kikousyagakukouhou@ns.jim.osaka-u.ac.jp](mailto:kikousyagakukouhou@ns.jim.osaka-u.ac.jp)